精ヲ含有スル飲料ヲ製造セサルモノニ付テハ第二十三條ノ二第一項ノ期間ハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ起算ス

一二 酒精及酒精含有飲料稅法施行規則（明治三十四年八月勅令第百六十五號）

◎改正（明治三十八年二月勅令第四號）（明治四十一年三月勅令第三十九號）

第一條 酒精又ハ酒精含有飲料ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ免許申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ（明治三八年勅令第四號改正）

第一條ノ二 左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ（明治三八年勅令第四號追加）

一 市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二 酒精又ハ酒精含有飲料稅法若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第二條 酒精又ハ酒精含有飲料ノ製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第三條 酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ其ノ製造場毎ニ地所建物ノ詳細ナル圖面、製造用容器、器具、器械ノ目錄及酒精又ハ酒精含有飲料製造方法書ヲ調製シ事業著手

前所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ種類變更ノ場合ニ於テ製造場及容器、器具、器械ニ變更ナキトキハ其ノ圖面及目錄ヲ提出スルコトヲ要セス

前項ノ圖面及目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度申告スヘシ製造方法ヲ變更シ又ハ製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第四條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ同第二項ノ申告ヲ爲シタルトキハ所轄稅務署ハ其ノ容器、器具、器械ノ檢定ヲ爲スヘシ此ノ場合ニ於テ稅務署ハ之ニ番號容量其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スルコトヲ得

前項檢定後ニ非サレハ製造者ハ酒精又ハ酒精含有飮料製造用容器、器具、器械ノ使用ヲ爲スコトヲ得ス

第五條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造ヲ休止セムトスルトキ若ハ製造休止後更ニ製造ニ著手セムトスルトキ又ハ其ノ申告シタル事項ヲ變更スルトキ亦同シ

第六條　酒精又ハ酒精含有飮料製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

相續ノ場合ヲ除クノ外酒精又ハ酒精含有飮料製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ酒精又ハ酒精含有飮料製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造者ハ酒精及酒精含有飮料稅法第五條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ（明治三八年勅令第四號改正）

第六條ノ二　酒精又ハ酒精含有飮料製造者其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ（同上追加）

第七條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第七條ノ二　變災其ノ他已ムヲ得サル事故ニ因リ酒精及酒精含有飮料稅法第五條ノ二ノ制限石數以上ノ製造ヲ爲ササリシ事由ノ證明ハ年度終了後又ハ免許取消後十日以內ニ之ヲ爲スヘシ（明治四一年勅令第三九號追加）

第八條　酒精及酒精含有飮料稅法第八條第二項ニ依リ檢定ヲ受ケタル酒精又ハ酒精含有飮料ハ製造場內ニ於テ他ノ酒精又ハ酒精含有飮料ト區別シテ藏置スヘシ

第九條　酒精又ハ酒精含有飮料ノ原料廢棄、亡失其ノ他原料ニ異狀アリタルトキハ製造者ハ其ノ旨直ニ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　酒精及酒精含有飮料稅法第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ亡失ノ事實アリタルトキ直ニ其ノ申請書ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十一條　酒精又ハ酒精含有飮料製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引取先

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル酒精又ハ酒精含有飮料ノ種類、數量及其ノ製成ノ日

四　他ニ引渡シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第四號引渡先ノ記載ヲ要セス

第十二條　酒精又ハ酒精含有飲料販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、引取ノ日及引取先

二　販賣シタル酒精又ハ酒精含有飲料ノ種類、數量、價額、販賣ノ日及賣渡先

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號賣渡先ノ記載ヲ要セス

第十三條　收稅官吏ハ隨時酒精又ハ酒精含有飲料製造場又ハ販賣場ニ就キ酒精又ハ酒精含有飲料、其ノ原料品、容器、器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ製造用容器、器具、器械又ハ原料ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者ハ其ノ承認ヲ受クヘシ（明治三八年勅令第四號改正）

一　醱酵液若ハ原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ他ノ容器ニ移替ヘムトスルトキ

二　濾過、蒸餾又ハ調合ニ着手セムトスルトキ

三　原料用酒精又ハ酒精含有飲料ヲ使用セムトスルトキ又ハ其ノ用途ヲ變更セムトスルトキ

四　酒精又ハ酒精含有飲料ノ殘滓等ヲ製造場外ニ移出シ又ハ之ヲ使用シ若ハ他ノ殘滓等ト混合セムトスルトキ

五　自己ノ所有ト否トヲ問ハス製造用容器、器具、器械ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

六　製造場外ヨリ製造場内ニ酒精又ハ酒精含有飲料ヲ移入セムトスルトキ

七　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十六條　酒精及酒精含有飲料稅法第二十三條ノ二ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ取消シタル場合ニ於テ半製品現存スルトキハ稅務署長ハ製造者ノ申請ニ依リ相當期間ヲ定メテ製成其ノ他必要ノ行爲ヲ繼續セシムヘシ（明治四一年勅令第三九號改正）

第十七條　收稅官吏ハ酒精又ハ酒精含有飲料製造者及販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

附　則

第十八條　本令施行前酒造稅法又ハ混成酒稅法ニ依リ酒精又ハ酒精含有飲料製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ本令第一條第一項及第三條第一項ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス

第十九條　本令施行前ヨリ引續キ酒精含有飲料ヲ製造スル者ニハ本令施行ノ際ニ限リ第四條第二項ヲ適用セス

附　則（明治三十八年一月一日勅令第四號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年三月十六日勅令第三十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年三月十六日勅令第三十六號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十八年一月一日勅令第四號）

一三　果實酒ノ件（明治三十八年三月大藏省令第十一號）

酒精及酒精含有飲料稅法第三條ノ三第二項ニ依リ果實酒ト看做スモノ左ノ通相定ム

一　果實ノ汁液ニ糖分ヲ補充シテ其ノ百分ノ二十ニ達スル限度迄精製糖ヲ加ヘテ醱酵セシメタルモノ但シ果實ノ汁液一石ニ付精製糖三十斤ヲ超ユルモノハ此ノ限ニ在ラス

二　果實ノ汁液又ハ前項ニ依リ精製糖ヲ加ヘタル果實ノ汁液ヲ水若クハ純炭酸石灰ヲ以テ酸ヲ調節シ醱酵セシメタルモノ

一四　酒精造石稅徵收猶豫及免除ニ關スル法律（明治四十三年三月法律第六號）

第一條　酒精及酒精含有飲料稅法ニ依リ納付スヘキ酒精ノ造石稅ハ其ノ稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ三月以內其ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得

前項ニ依リ造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル者猶豫期間內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ稅金ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保物ハ之ヲ公賣ニ付シ公賣ノ費用及稅金ニ充テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

擔保ニ關スル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二條　造石稅ノ徵收ヲ猶豫セラレタル酒精ヲ其ノ猶豫期間內ニ工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飲料戾稅法ノ規定スル所ニ從ヒ工業用ニ使用又ハ供給シタルトキハ其ノ石數ニ相當スル酒精ニ付テハ造石稅ヲ免除ス

第三條　前條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ハ申請書ニ其ノ酒精カ造石稅ノ徵收猶豫ヲ受ケタルモノナルコトヲ證スヘキ書類竝工業用ニ使用又ハ供給シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スルコトヲ要ス

第四條　詐僞其ノ他不正ノ所爲ヲ以テ造石稅ノ免除ヲ得又ハ得ムトシタル者ハ其ノ造石稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ三十圓ヲ下ルコトヲ得ス

第五條　間接國稅犯則者處分法及明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニ之ヲ準用ス

附　則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

一五　酒精造石税徵收猶豫及免除ニ關スル法律施行ニ關スル件（明治四十三年三月勅令第百八十四號）

第一條　明治四十三年法律第六號第一條ニ依リ徵收猶豫ヲ請求セムトスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル申請書ヲ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

一　酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、査定ノ日、製造場、請求者ノ住所、氏名又ハ名稱
二　擔保物ノ種類、數量及價格
三　猶豫ヲ請ハムトスル期間
四　擔保物提供者ノ住所、氏名又ハ名稱
五　前各號ノ外必要ナル事項

第二條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ所轄稅務署ニ於テ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第三條　擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ稅務署ハ直ニ造石稅ヲ徵收

ス

第四條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ造石稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ造石稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第五條　明治四十三年法律第六號第三條ノ申請書ニハ其ノ酒精ノ數量、含有純酒精ノ容量、免除スヘキ稅額、查定ノ年月日、製造場及請求者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シ製造場所轄稅務署ニ提出スヘシ

造石稅ノ免除ヲ請求セムトスル者ト酒精ヲ工業用ニ使用又ハ供給シタル者ト異リタル場合ニ於テハ免除申請者ハ使用者又ハ供給者ニ其ノ酒精ヲ交付シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添附スヘシ

第六條　前條ノ申請書ニ添附スヘキ酒精造石稅徵收猶豫證明書又ハ酒精使用證明書ノ下付ヲ受ケムトスル者ハ所轄稅務署ニ申請スヘシ

工業用酒精酒類其ノ他酒精含有飮料戾稅法施行規則ハ前項ノ酒精使用證明書ヲ下付スル場合ニ之ヲ準用ス

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第四節　沖繩縣酒類出港稅

一六沖繩縣酒類出港稅則（明治二十一年三月勅令第十二號）

◎改正（明治二十九年三月法律第三十一號）（明治三十一年十二月法律第二十八號）（明治三十四年三月法律第九號）（明治三十七年四月法律第六號）（明治三十八年一月法律第六號）（明治四十一年三月法律第二十五號）

第一條　沖繩縣內ニ於テ製造シタル淸酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國內ノ他ノ地方ヘ移出スルトキハ旅客ノ携帶品タルト否トヲ問ハス其ノ石數ニ應シ酒造稅法第四條ニ依ル造石稅ノ三分ノ二ノ出港稅ヲ課ス（明治二九年法律第三一號明治三一年法律第二八號明治三四年法律第九號明治三八年法律第六號明治四一年法律第二五號改正）

第二條　命令ヲ以テ定ムル港灣ニ由ルニ非サレハ沖繩縣ニ於テ製造シタル淸酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國內ノ他ノ地方ニ移出スルコトヲ得ス（明治三七年法律第六號改正）

第三條　荷主ハ酒類ヲ他府縣ヘ輸出スルトキ出港稅ヲ納メ船積免狀並領收證ヲ受ケ船積スヘシ（明治三七年法律第六號改正）

第四條　船長ハ船積免狀ニ照シ酒類ヲ船積シ出港前ニ於テ其積石數ヲ稅務署ニ屆出ヘシ（明治三七年法律第六號改正）

第五條　沖繩縣下ヨリ出港スル船舶ハ主任官吏ニ於テ檢査スルコトアルヘシ但シ其官吏ハ主任

官タルノ證票ヲ携帶スヘシ

第六條　出港税ヲ納メス酒類ヲ他府縣ヘ輸出セントシテ船積シ又ハ輸出シタル者ハ出港税金五倍ノ罰金ニ處ス但シ五十圓ヲ下ルコトヲ得ス（明治三四年法律第九號改正）

前項ノ酒類ハ之ヲ沒收ス既ニ賣捌キタルモノハ其ノ代價ヲ追徵ス（明治三四年法律第九號追加）

第七條　第四條ノ屆出ヲ爲サヽル者ハ十圓以上百圓以下ノ罰金ニ處ス（明治三四年法律第九號改正）

第八條　主任官吏ノ檢査ヲ拒ム者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス（上同）

第九條　此税則ニ違犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十條　前條々ノ場合ニ於テ家族雇人及囑託ヲ受ケタル者又ハ乘組人ノ所犯ニ係ルモノト雖モ總テ其荷主又ハ船長ヲ處罰スヘシ

第十一條　此税則ハ明治二十一年十月一日ヨリ施行ス

附　則（明治二十九年三月法律第三十一號）

此法律ハ明治二十九年十月一日ヨリ施行ス

附　則（明治三十一年十二月法律第二十八號）

此ノ法律ハ明治三十二年一月一日ヨリ施行ス

附　則（明治三十四年三月法律第九號）

本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十七年四月一日法律第六號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十八年一月一日法律第六號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十一年三月法律第二十五號）

本法ハ明治四十一年十月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ酒造税法及明治四十一年法律第二十四號ニ依リ造石税ヲ課セラレサル酒類ニ付テハ仍從前ノ規定ニ依ル

一七沖繩縣酒類出港稅則施行細則（明治二十一年七月大藏省令第七號）

◎改正（明治三十七年四月大藏省令第七號）

第一條　酒類ヲ他府縣ヘ輸出スル者ハ少ナクトモ出港二十四時以前ニ左ノ項目ヲ記載シタル書面ニ稅金相添ヘ那覇稅務署ヘ申出テ其ノ酒類ノ檢査ヲ請ヒ船積免狀及稅金領收證ヲ受クヘシ（明治三十七年省令第七號改正）

一 酒類ノ種目及石數

一 出港稅額

一 容器ノ種類及箇數

一 荷主ノ族籍住所姓名

一 船名及船長姓名

一 出港地名

第二條　稅務署ハ酒類ヲ檢査スルニ當リ前條ノ書面ニ照シ石數不相當ト認ムルトキハ每容器ヲ開キ實量スルコトアルヘシ（明治三十七年省令第七號改正）

第三條　第一條ノ場合ニ於テ稅金ヲ算出スルニハ酒類ハ各容器ノ桝量ヲ合計シ合位ニ金員ハ厘位ニ止メ以下切捨ルモノトス

第四條　主任官船舶ノ檢査ヲ爲シ犯罪ヲ發見シ若クハ犯罪アリト認知シタルトキハ其酒類又ハ犯罪者ト認メタル者ノ出港ヲ差止ムルコトアルヘシ

第五條　出港差止中其酒類ヲ出港シ若クハ出港シタル者ハ貳圓以上貳拾圓以下ノ罰金ニ處ス

第六條　沖繩縣ニ於テ製造シタル清酒、濁酒、白酒、味淋又ハ燒酎ヲ帝國內ノ他ノ地方ニ移出スルハ那覇港ニ由ルヘシ（明治三十七年省令第七號追加）

附　則（明治三十七年四月大藏省令第七號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

露光量違いの為重複撮影

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醬油稅

○醬油稅則
○醬油稅則施行規則
○自家用醬油稅法
○自家用醬油稅法施行規則

露光量違いの為重複撮影

醬油稅

○醬油稅則

○醬油稅則施行規則

○自家用醬油稅法

○自家用醬油稅法施行規則

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ二一〇）

○醬油税表

○醬油造石税

年次	諸味査定石高	溜査定石高	計	税額
大正七年	二、三七九、七七八石	二五〇、八四二石	二、六三〇、六二〇石	四、五七八、五〇〇円
同六年	二、三三四、六一二	二五一、八三五	二、五八六、四四七	四、五〇一、二五四
同五年	二、三五五、七七一	二四八、八六七	二、六〇四、六三八	四、五三三、三九七
同四年	二、一六二、五一九	二二五、六八七	二、三八八、二〇六	四、一五七、〇四二
同三年	二、一五五、一〇四	二二七、〇五六	二、三八二、一六〇	四、一四六、五八〇

○自家用醬油税（一月一日現在）

年次	製造人員 一石未満	製造人員 一石以上五石未満	製造人員 計	税額
大正八年	一、四五七、一二九人	二〇、八〇〇人	一、四七七、九二九人	七五一、三九一円
同七年	一、四五二、六八五	二〇、七〇二	一、四七三、三八七	七四九、一一〇
同六年	一、四五五、九三六	二〇、五七五	一、四七六、〇五一	七五〇、六一四
同五年	一、四六七、九九六	二一、〇三九	一、四八九、〇三五	七五七、一九二
同四年	一、四七六、三九一	二一、四九〇	一、四九七、八八一	七六一、八九七

第九章　醬油税

第一節　醬油造石税

一　醬油税則（明治二十一年六月勅令第四十七號）

◎改正（明治二十九年四月法律第六十四號）（明治三十二年二月法律第二十五號）（明治三十七年四月法律第七號）（明治三十九年三月法律第十六號）

第一條　醬油溜ヲ併稱ス ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所毎ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ（明治三二年法律第二五號改正）

第二條　醬油製造人ハ左ノ造石税ヲ納ムヘシ（明治二九年法律第六四號同三二年法律第二五號同三九年法律第一六號改正）

一　醬油　諸味一石ニ付　金一圓七十五錢

二　溜　製成一石ニ付　金一圓六十五錢

第三條　削除（明治三七年法律第七號）（同三七年法律第七號ヲ以テ第二項削除）（明治三七年法律第七號ヲ以テ營業税ニ關スル事項ヲ削除ス）

第四條　造石税ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第二五號改正）

第一期　七月三十一日限

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一〇）

○醤油税表

年次	醤油造石税査定石高 諸味	溜	計	税額
大正七年	二、三七九、七七八石	二五〇、八四二石	二、六三〇、六二〇石	四、五七八、五五〇円
同六年	二、三三四、六一二	二五一、八三五	二、五八六、四四七	四、五〇一、二五四
同五年	二、三五五、七七一	二四八、八六七	二、六〇四、六三八	四、五三三、三九七
同四年	二、一六二、五一九	二二五、六八七	二、三八八、二〇六	四、一五七、〇四二
同三年	二、一五五、一〇四	二二七、〇五六	二、三八二、一六〇	四、一四六、五八〇

○自家用醤油税

年次	製造人員（一月一日現在） 一石未満	一石以上五石未満	計	税額
大正八年	一、四五七、一二九人	二〇、八〇〇人	一、四七七、九二九人	七五一、三九一円
同七年	一、四五二、六八五	二〇、七〇二	一、四七三、八一七	七四九、二一〇
同六年	一、四五五、九三六	二〇、五七五	一、四七六、五一一	七五〇、六一四
同五年	一、四六七、九九六	二一、〇三九	一、四八九、〇三五	七五七、一九二
同四年	一、四七六、三九一	二一、四九〇	一、四九七、八八一	七六一、八九七

第九章　醤油税

第一節　醤油造石税

一　醤油税則（明治二十九年六月勅令第四十七號）

◎改正（明治二十九年四月法律第六十四號）（明治三十二年二月法律第二十五號）（明治三十七年四月法律第七號）（明治三十九年三月法律第十六號）

第一條　醤油（溜ヲ併稱ス）ヲ製造セムトスル者ハ製造場一箇所每ニ政府ノ免許ヲ受クヘシ其製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ（明治三二年法律第二五號改正同三七年法律第七號ヲ以テ第二項削除）

第二條　醤油製造人ハ左ノ造石税ヲ納ムヘシ（明治二九年法律第六四號ヲ以テ營業税ニ關スル事項ヲ削除ス明治三二年法律第二五號同三九年法律第一六號改正）

一　醤油諸味一石ニ付　金二圓七十五錢

二　溜製成一石ニ付　金一圓六十五錢

第三條　削除（明治三七年法律第七號）

第四條　造石税ハ左ノ期限ニ從ヒ之ヲ納ムヘシ但廢業スル者ハ其際之ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第二五號改正）

第一期　七月三十一日限

一月一日ヨリ四月三十日マテ査定石數ニ係ル税額
第二期　十一月三十日限
五月一日ヨリ八月三十一日マテ査定石數ニ係ル税額
第三期　翌年三月三十一日限
九月一日ヨリ十二月三十一日マテ査定石數ニ係ル税額

第五條　醬油ハ之ヲ製成スル前ニ溜ハ之ヲ製成シタル後十日以内ニ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受クヘシ
造石數査定濟ノ醬油ト査定未濟ノ醬油トヲ混和シタルトキハ其總石數ニ就キ更ニ査定ヲ受クヘシ

第六條　醬油製造人廢業ノ際査定未濟ノ醬油ヲ所持スルトキハ管廳ニ申出造石數ノ査定ヲ受ケ其造石税ヲ納ムヘシ但其醬油ヲ同業者ニ賣渡讓渡ス場合ニ限リ管廳ニ申出檢査ヲ受置キ其買受讓受人ニ於テ第五條ノ査定ヲ受ケ及第四條ノ期限ニ從ヒ造石税ヲ納ムルコトヲ得
製造場二箇所以上ニ於テ醬油製造ヲ爲ス者其一箇所以上ヲ廢シ査定未濟ノ醬油ヲ他ノ製造場ニ移ストキハ管廳ニ申出檢査ヲ受クヘシ

第七條　醬油ヲ原料トシテ醬油ヲ製造スルトキハ原料醬油ニハ造石税ヲ課セス（明治三二年法律第二五號改正）

第八條　醬油製造人ハ同業者ニ非サル者ニ醬油ヲ製造スル爲メニ製造場ヲ貸渡スコトヲ得ス

第九條　醬油製造人ハ製造場ニ關シ修繕等已ムヲ得サル事故ニ因リ管廳ニ屆出タル後ニ非サレハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ其製造場外ニ移スコトヲ得ス

第十條　醬油製造人ハ造石數査定未濟ノ醬油ヲ賣渡貸渡讓渡又ハ自用スルコトヲ得ス但第六條但書ノ場合ハ此限ニ在ラス

第十一條　造石税ノ査定ヲ經タル醬油其造石税納期内ニ天災又ハ避ヘカラサル事故ニ因リ廢棄ニ屬シタルトキハ直チニ管廳ニ申出檢査ヲ受ケ該造石税ノ免除ヲ請フコトヲ得

第十二條　醬油製造人ハ營業ニ係ル要領ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十三條　外國ニ輸出スル醬油ハ輸出ノ節税關ノ檢査ヲ受置キ輸入港税關ノ陸揚免狀若クハ其他證憑ト爲ルヘキ書類ニ該港在留ノ我國領事ノ檢印ヲ受ケ之ヲ輸出港ノ税關ニ差出シ造石税ノ下戻ヲ請求スルコトヲ得其下戻ノ歩合ハ大藏大臣ノ定ムル所ニ依ルヘシ但造石税ノ下戻ヲ受ケタル醬油ヲ本邦ニ輸入スルトキハ其金額ヲ輸入港税關ニ還納スヘシ

第十四條　削除（明治三一年法律第一九六號）

第十五條　削除（明治三一年法律第七號）

第十六條　削除（明治三一年法律第一九六號）

第十七條　醬油製造人ノ製造場倉庫其他ノ場所醬油仕込高並仕込ニ關スル原品及營業ニ關スル帳簿ハ當該官吏之ヲ檢査スルコトアルヘシ但當該官吏ハ其證票ヲ携帶スヘシ

第十八條　當該官吏ニ於テ此税則ニ關シ犯罪アリト認知シ又ハ思料スルトキハ其場所ニ立入リ證憑取調ノ處分ヲ爲スコトヲ得但當該官吏ハ其證憑ヲ携帶スヘシ

第十九條　免許ヲ受ケスシテ醬油ヲ製造シタル者ハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處シ仍ホ其造石數額ニ應シ第二條ノ造石稅ヲ課ス（明治三二年法律第二五號同三七年法律第七號改正）

前項ノ造石稅ハ其際直ニ之ヲ納ムヘシ

第二十條　醬油製造人ニシテ醬油ヲ隱蔽シタル者ハ其石數ニ相當スル造石稅三倍ノ罰金ニ處ス（明治三二年法律第二五號同三九年法律第一六號改正）

第十五條ヲ犯シタル者ハ罰前項ニ同シ

第二十一條　第五條第六條ノ査定ヲ受ケサル者、第八條第九條ヲ犯シタル者又ハ逋脫ヲ謀ル爲帳簿ノ記載ヲ詐リタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス（明治三二年法律第二五號同三七年法律第七號同三九年法律第一六號改正）

第二十二條　第六條ノ檢査ヲ受ケサル者及帳簿ノ記載ヲ怠リタル者ハ二圓以上二十圓以下ノ罰金ニ處ス（明治三二年法律第二五號改正）

第二十三條　削除（明治三七年法律第七號）

第二十四條　此稅則ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ減輕再犯加重數罪倶發ノ例ヲ用ヒス

第二十五條　醬油製造人ノ家族雇人ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其製造人ヲ處罰ス

醬油製造人十六歲未滿ノ幼年者及瘋癲白痴又ハ瘖啞ニシテ此稅則ヲ犯シタルトキハ其後見人ヲ處罰ス

第二十六條　此稅則施行ノ細則ハ大藏大臣之ヲ定ム

第二十七條　此稅則ハ明治二十一年九月一日ヨリ施行ス

附　則

第二十八條　沖繩縣及東京府管下小笠原島伊豆七島ニハ當分此稅則ヲ施行セス但此稅則施行ノ地ニ輸送スル醬油ヲ製造スル者ハ此稅則ニ從フヘシ（明治三二年法律第二五號改正）

第二十九條　削除（明治三七年法律第七號）

附　則（明治二十九年四月法律第六十四號）

此法律ハ明治三十年一月一日ヨリ施行ス

附　則（明治三十二年二月法律第二十五號）

此法律ハ明治三十二年三月一日ヨリ施行シ同日以後査定ニ係ル醬油ニハ其製造著手ノ時期ニ拘ラス此法律ヲ適用ス

此法律施行ノ際醬油製造營業ノ免許鑑札ヲ受ケタル者ハ此法律ニ依テ製造ヲ免許シタルモノト看做ス此法律施行ノ際自家用料ノ醬油ヲ製造スル者ハ明治三十二年三月二十日マテニ其現在諸味石高ヲ記載シ政府ニ申告スヘシ但シ明治三十二年ニ限リ第一條第二條ノ制限石數ハ此法律施行後ニ於テ仕込ムモノノミヲ計算ス

附　則（明治三十七年四月一日法律第七號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十九年三月法律第十六號）

醬油製造人カ本法施行前ニ買受ケタル麴ヲ以テ仕込ミタル醬油ニ關シテハ本法施行後ト雖舊稅

率ニ依リ造石稅ヲ課ス
改正稅率ニ依リ造石稅ヲ課セラルル醬油ニ付テハ非常特別稅法ニ依ル醬油稅ノ增徵ヲ爲サス

二　醬油稅則施行規則（明治三十二年三月勅令第四十六號）

○改正（明治三十五年十一月勅令第二百五十三號）（明治三十七年四月勅令第八十八號）（明治三十八年一月勅令第六號）（大正五年十二月勅令第二百三十九號）

第一條　醬油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シタル免許申請書ヲ製造場所轄稅務署長ニ提出スヘシ（明治三八年勅令第六號改正明治三九年法律第一六號ニ依リ但書自然消滅）

第二條　左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ稅務署長ハ醬油製造ノ免許ヲ與ヘサルヘシ（明治三八年勅令第六號改正）

一　市街地又ハ稅務署所在地ヨリ一里以上ノ距離アル場所ニ製造場ヲ設ケムトスルトキ但シ稅務署長ニ於テ製造又ハ監督上特別ノ便宜アリト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

二　醬油稅則若ハ本令ニ違反シタル者又ハ其ノ戶主、家族、同居者、雇人其ノ他從業者又ハ稅務署長ニ於テ取締上免許ヲ與フルニ不適當ト認ムル者カ免許ヲ申請シタルトキ

第三條　醬油製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ

第四條　醬油製造人ハ其ノ製造場每ニ地所、建物ノ詳細ナル圖面竝醬油製造用容器ノ目錄ヲ調製シ事業着手前ニ稅務署長ニ提出スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

前項ノ容器ヲ修理シ又ハ前項ノ圖面目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ之ヲ申告スヘシ醬油製造人ノ居所、氏名ニ異動ヲ生シタルトキ亦同シ

第五條　醬油製造人ヨリ前條第一項ノ目錄ヲ提出シ又ハ容器ニ關シ同條第二項ノ申告ヲ爲シタ

ルトキハ稅務署長ハ其ノ容器ノ檢定ヲ爲スヘシ其ノ檢定後ニ非サレハ醤油製造人ハ之ヲ使用スルコトヲ得ス（明治三五年勅令第二五三號改正）

稅務署長容器ノ檢定ヲ爲シタルトキハ之ニ番號其ノ他必要ナル事項ヲ標記又ハ烙記スヘシ（同上）

第六條　醤油製造人ハ每年見込仕込石數、見込査定石數及製造方法ヲ記シ前年十二月中ニ稅務署長ニ申告スヘシ但シ前年ノ製造方法ニ依ルモノハ其ノ旨ヲ申告シ別ニ製造方法ヲ記載スルコトヲ要セス（明治三五年勅令第二五三號改正）

新ニ免許ヲ受ケタル者ハ事業著手前ニ前項ノ申告ヲ爲スヘシ

前二項ニ依リ申告シタル事項ヲ變更セムトスルトキハ之ヲ申告スヘシ

第七條　醤油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署長ニ申告スヘシ（明治三八年勅令第六號改正）

相續ノ場合ヲ除クノ外醤油製造業ノ引繼ヲ受ケムトスル者ハ第一條ニ依リ醤油製造ノ免許申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ此ノ場合ニ於テハ前製造人ハ醤油稅則第一條ニ依リ其ノ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

第七條ノ二　醤油製造人其ノ製造場ヲ移轉セムトスルトキハ移轉先ノ所轄稅務署長ニ申請シ其ノ許可ヲ受クヘシ（同上追加）

第七條ノ三　醤油製造人其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許取消申請書ヲ所轄稅務署長ニ提出スヘシ（同上）

第八條　醤油ノ造石稅ハ其ノ製造場所在ノ地方ニ於テ之ヲ徵收ス

第九條　醤油ノ造石數ハ容器ノ容量ニ依リ一容器每ニ其ノ現在スル醤油ノ總量ニ就キ之ヲ査定スヘシ

前項ニ依リ難キ場合ニ於テハ現在ノ醤油又ハ證憑物件ニ就キ之ヲ査定スヘシ

第十條　醤油ヲ醤油製造ノ原料ニ供セムトスルトキハ醤油ハ製成前溜ハ製成ノ際其ノ石數ノ檢定ヲ受クヘシ

前項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醤油ヲ製造場外ニ移サムトスルトキハ稅務署長ニ申告スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第十一條　前條第一項ニ依リ檢定ヲ受ケタル醤油ヲ賣渡、貸渡、讓渡又ハ自用シ若ハ前條第二項ノ申告ヲ爲サスシテ其ノ製造場外ニ移シタルトキハ檢定石數ニ依リ其ノ造石數ヲ査定スヘシ

第十二條　左ニ掲クル場合ニ於テ收稅官吏カ必要ト認メテ承認ヲ受クヘキコトヲ命シタルトキハ醤油製造人ハ其ノ承認ヲ受クヘシ（明治三八年勅令第六號改正）

一　自己ノ所有ト否トヲ問ハス容器ヲ製造場外ニ移出セムトスルトキ

二　原料用醤油ヲ使用セムトスルトキ

三　諸味又ハ原料用醤油ノ容器ヲ變換セムトスルトキ

四　前各號ノ外收稅官吏カ指定シタル事項ヲ爲サムトスルトキ

第十三條　造石數査定未濟ノ醬油漏溢其ノ他ノ事故ニ依リ減量又ハ廢棄ニ屬シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第十四條　醬油稅則第十一條ニ依リ造石稅ノ免除ヲ請ハムトスル者ハ其ノ事實ノ生シタルトキ直ニ稅務署長ニ申請スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第十五條　前條ノ申請ヲ受ケタルトキハ稅務署長ハ其ノ事實ヲ調査シ其ノ廢棄ヲ認ムルトキハ稅金ノ免除處分ヲ爲スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第十六條　外國ニ輸出シタル醬油ノ造石稅下戻ヲ請求セムトスル者ハ輸出港稅關ノ檢査濟證明書並輸入港稅關ノ陸揚免狀若ハ其ノ他ノ證憑書類ヲ當初ノ輸出港稅關ニ提出スヘシ

假置場ニ於テ製造シタル醬油ヲ外國ニ輸出シタル者前項ノ請求ヲ爲サムトスルトキハ前項ノ書類ノ外製造場所轄稅務署ノ納稅濟證明書及假置場所轄稅關ノ製造證明書ヲ提出スヘシ（大正五年勅令第二三九號追加）

第十七條　醬油ヲ製成シタル後其ノ諸味造石數ノ算出ヲ要スルトキハ所轄稅務署管內ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均步合ニ依ル（大正五年勅令第二三九號但書削除）

第十七條ノ二　輸出醬油ノ造石稅下戻ノ場合ニ於ケル諸味造石數ノ算出ニ付テハ全國ニ於ケル前年中ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ平均步合ニ依ル但シ假置場ニ於テ製造シタル醬油ニ付テハ其ノ製成醬油一石ニ對スル諸味石數ノ步合ニ依ル（大正五年勅令第二三九號追加）

第十八條　溜粕ハ其ノ製成シタル溜ノ造石數査定ノ時之ヲ檢査スヘシ

第十九條　醬油製造人ハ毎年一月三十一日限リ前年中ニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ稅務署長ニ申告スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第二十條　醬油製造人ハ其ノ年一月一日ヨリ廢止ノ日ニ至ルマテニ製成シタル醬油石數及其ノ諸味石數ヲ其ノ際申告スヘシ

第二十條ノ二　收稅官吏ハ醬油製造人ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス（明治三八年勅令第六號追加）

第二十一條　本令ニ於テ醬油製造人ト稱スルハ醬油製造ノ免許ヲ受ケタル者ヲ謂フ

附　則（明治三十五年十一月勅令第二百五十三號）

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十七年四月一日勅令第八十八號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十八年一月一日勅令第六號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年十二月一日勅令第二百三十九號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二節　自家用醬油稅

三　自家用醬油稅法（明治三十三年三月法律第四十三號）

◎改正（明治三十七年四月法律第八號）

第一條　自家用醬油（溜ヲ併稱ス）一箇年五石以下ヲ製造セムトスル者ハ本法ニ依リ政府ノ免許ヲ受クヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ免許ノ取消ヲ求ムヘシ

前項ニ依リ免許ヲ受ケタル製造高ヲ變更セムトスルトキハ更ニ政府ノ許可ヲ受クヘシ但シ同年內ニ於テハ製造高ノ變更ヲ許可セス

第二條　自家用醬油製造免許ハ一家一人ニ限ル

第三條　自家用醬油製造人ハ其ノ製造見積高ニ依リ每年左ノ製造稅ヲ納ムヘシ（明治三十七年法律第八號改正）

第一種	一石未滿	金五十錢
第二種	二石未滿	金一圓
第三種	三石未滿	金二圓
第四種	四石未滿	金三圓
第五種	五石以下	金四圓

第四條　製造稅ハ之ヲ二分シ其ノ年十月及翌年三月ヲ以テ納期トス但シ納期後免許ヲ受クルトキハ即納トス

第五條　自家用醤油製造ノ免許ヲ受ケタル者ハ各自ノ居宅域内ニ限リ之ヲ製造スルモノトス

第六條　當該官吏ハ自家用醤油製造者ニ就キ檢査ヲ爲スコトヲ得

第七條　自家用醤油製造者其ノ製造シタル醤油ヲ販賣シ又ハ其ノ居宅域外ニ於テ自家用醤油ヲ製造シタルトキハ五圓以上五十圓以下ノ罰金ニ處ス

第八條　自家用醤油製造者免許制限ヲ超過シテ醤油ヲ製造シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處シ仍其ノ超過石數ニ對シ醤油稅則第二條ノ造石稅ヲ課ス

前項ノ造石稅ハ即時之ヲ徵收ス

第九條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法ノ不論罪及減輕、再犯加重、數罪倶發ノ例ヲ用キス

第十條　自家用醤油製造者ノ家族、雇人等ニシテ其ノ製造ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造主ハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ本法ノ處罰ヲ免ルコトヲ得ス

第十一條　左ニ記載スル者ニハ本法ヲ適用セス（明治三十七年法律第八號改正）

一　醤油製造營業人、醤油請賣人

二　料理店、飲食店、旅人宿營業人

三　前二號ノ者ト同居スル者

本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者前項各號ニ該當スルニ至リタルトキハ本法ニ依ル免許ヲ以テ醤油稅則ニ依ル免許ト看做シ以後製造ニ係ル醤油ニハ同稅則ヲ適用ス但シ其ノ年ノ製造稅ハ之ヲ免除セス

第十二條　本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ニ對シテハ醤油稅則ヲ適用セス

附　則

第十三條　本法ハ明治三十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十四條　本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ノ明治三十三年一月一日ヨリ同年三月三十一日マテノ間ニ製造シタル醤油ニシテ醤油稅則ニ依リ查定ヲ受ケタルモノニ關シテハ其ノ造石稅ヲ免除ス

第十五條　沖繩縣、東京府管下小笠原島、伊豆七島ニハ當分本法ヲ施行セス

附　則（明治三十七年四月一日法律第八號）

本法ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

醤油稅則ニ依リ自家用醤油製造ノ申告ヲ爲シタル者ハ本法ニ依リ免許ヲ受ケタル者ト看做ス

四　自家用醬油稅法施行規則（明治三十三年三月勅令第六十七號）

◎改正（明治三十五年十一月勅令第二百五十三號）（明治三十七年四月勅令第八十九號）

第一條　自家用醬油稅法第一條ニ依リ自家用トシテ醬油ノ製造免許ヲ受ケムトスル者ハ其ノ居所、氏名、自家用醬油稅法第三條ノ種別及醬油製造方法ヲ記シ稅務署長ニ申請スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第二條　自家用醬油稅法第三條ノ種別ヲ變更セムトスルトキハ前年中ニ變更ノ申請書ヲ稅務署長ニ差出スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第三條　自家用醬油製造者其ノ居所、氏名又ハ製造方法ヲ變更シタルトキハ直ニ稅務署長ニ申告スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

第四條　自家用醬油稅法ニ依リ免許ヲ受ケタル者同法第十一條第一項各號ノ一ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ旨直ニ稅務署長ニ申告スヘシ（明治三五年勅令第二五三號同三七年勅令第八九號改正）

第五條　自家用醬油ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨稅務署長ニ申請スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

自家用醬油製造者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタルトキハ相續人又ハ財產管理人ヨリ其ノ旨稅務署長ニ申告スヘシ（明治三五年勅令第二五三號改正）

附　則（明治三十五年十一月勅令第二百五十三號）

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十七年四月一日勅令第八十九號）

本令ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

露光量違いの為重複撮影

砂糖消費税

○砂糖消費税
○砂糖消費税法施行規則

露光量違いの為重複撮影

砂糖消費稅

○砂糖消費稅
○砂糖消費稅法施行規則

露光量違いの為重複撮影

（租稅統計ノ一一）　砂糖消費稅表（大正七年度）

種別	課稅斤數 內地糖	課稅斤數 輸入糖	課稅斤數 計	稅額
砂糖	六五七、〇九五、七七八斤	八八、九三一、五三五斤	七四六、〇二七、三〇三斤	四一、〇三四、四七六円
糖蜜	一七、四〇三、九五六	一八四、一一七	一七、五八八、〇七三	四一四、四五六
糖水	一六八	二、九〇九	三、〇七七	二八五
計	六七四、四九九、九〇二	八九、一一八、五五一	七六三、六一八、四五三	四一、四四九、二一七
（參照）				
大正六年度	五八九、四五九、〇〇二	三五、一三六、三六〇	六二四、五九五、三六二	三一、三〇七、二〇二
同　五年度	五三三、九二六、八〇二	二六、八五九、六六〇	五六〇、七八六、四六二	二八、三八八、四八五
同　四年度	四五七、五一〇、八〇三	五九、六六二、一九三	五一七、一七二、九九六	二五、六三五、五四七
同　三年度	三七六、三六〇、一一一	七九、一三四、一一二	四五五、四九四、二二三	二二、九九五、〇四八

第十章　砂糖消費稅

一　砂糖消費稅法（明治三十四年三月法律第十三號）

◎改正（明治三十五年三月法律第二十一號）（明治三十八年二月法律第二十六號）（明治四十一年二月法律第一號）（明治四十二年四月法律第二十號）（明治四十三年四月法律第三十三號）（明治四十四年四月法律第五十七號）（大正五年四月法律第三十八號）

第一條　內地消費ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス（大正五年法律第三八號改正）

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條　消費稅ノ割合左ノ如シ（明治四一年法律第一號同四二年法律第二〇號同四三年法律第三三號同四四年法律第五七號改正）

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黑糖　百斤ニ付　金二圓

乙　樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付　金二圓五十錢

露光量違いの為重複撮影

一　砂糖消費税法（明治三十四年三月法律第十三號）

◎改正（明治三十五年三月法律第二十一號）（明治三十八年二月法律第二十六號）（明治四十一年二月法律第一號）（明治四十二年四月法律第二十號）（明治四十三年四月法律第三十三號）（明治四十四年四月法律第五十七號）（大正五年四月法律第三十八號）

第一條　内地消費ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保税地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜及糖水ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス（大正五年法律第三八號改正）

第二條　製品ノ原料トシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ使用スルハ其ノ消費ト看做ス

第三條　消費税ノ割合左ノ如シ（明治四一年法律第一號同四二年法律第二〇號同四三年法律第三三號同四四年法律第五七號改正）

一　砂糖

第一種　砂糖色相和蘭標本第十一號未滿ノ砂糖

甲　樽入黒糖　百斤ニ付　金二圓

乙　樽入白下糖但シ分蜜シタルモノ、白下糖以外ノ砂糖ニ加工シテ製造シタルモノ及全部又ハ一部ノ新式機械ニ依リ製造シタルモノヲ除ク　百斤ニ付　金二圓五十錢

（租税統計ノ一一）

砂糖消費税表（大正七年度）

種別	課税斤数 内地糖	課税斤数 輸入糖	課税斤数 計	税額
砂糖	六五七、〇九五、七七八斤	八八、九二三、五三五斤	七四六、〇一九、三一三斤	四一、〇三四、四七六円
糖蜜	一七、四〇三、九五六	一八四、一一七	一七、五八八、〇七三	四二四、四五六
糖水	一六八	二、九〇九	三、〇七七	二八五
計	六七四、四九九、九〇二	八九、一一〇、五六一	七六三、六一〇、四六三	四一、四五九、二一七
（参照）				
大正六年度	五八九、四五九、〇〇三	四五、一三六、三六〇	六三四、五九五、三六三	三一、三〇七、二〇三
同　五年度	五三三、九二六、八〇三	二六、八五九、六六〇	五六〇、七八六、四六三	二八、三六八、四八五
同　四年度	四五七、五二〇、八〇三	五九、六六二、一九三	五一七、一八二、九九六	二五、六三五、五四七
同　三年度	三七六、三六〇、一一一	七九、一三四、一一二	四五五、四九四、二二三	二二、九九五、〇四八

丙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　金三圓

第二種　砂糖色相和蘭標本第十五號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金五圓

第三種　砂糖色相和蘭標本第十八號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金七圓

第四種　砂糖色相和蘭標本第二十一號未滿ノ砂糖　百斤ニ付　金八圓

第五種　砂糖色相和蘭標本第二十一號以上ノ砂糖　百斤ニ付　金九圓

第六種　氷砂糖、角砂糖、棒砂糖其ノ他類似ノモノ　百斤ニ付　金十圓

二　糖蜜

第一種　氷砂糖ヲ製造スルトキニ生スル糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ七十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　金三圓

乙　其ノ他ノモノ　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量百斤ニ付金九圓ノ割合ヲ以テ算出シタル金額

第二種　其ノ他ノ糖蜜

甲　糖分ヲ蔗糖トシテ計算シタル重量全重量ノ百分ノ六十ヲ超エサルモノ　百斤ニ付　金二圓

乙　其ノ他ノモノ　百斤ニ付　金三圓

三　糖水　百斤ニ付　金八圓

第四條　前條ノ消費稅ハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルトキ之ヲ徵收ス但シ政府ニ於テ相當ト認ムル擔保ヲ提供スルトキハ六箇月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ政府ハ其ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ見本ヲ採取スルコトヲ得（大正五年法律第三八號改正）

前項ニ依リ擔保ヲ提供シタル者期限內ニ稅金ヲ納付セサルトキハ擔保ヲ以テ之ニ充ツ但シ金錢以外ノ擔保ハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充テ不足金アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス（大正五年法律第三八號改正）

擔保物ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第五條　政府ノ承認ヲ受ケ外國輸出ノ目的ヲ以テ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニハ消費稅ヲ課セス（大正五年法律第三八號改正）

前項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ付必要アリト認ムルトキハ其ノ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第一項ノ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ引取後六箇月以內ニ外國ニ輸出セラレタルコトノ證明ナキモノハ內地消費ニ供セラレタルモノト看做シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

前條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス

第六條 第四條第一項但書、前條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ引取ルコトヲ得ス（同上）

第七條 第四條第一項但書、第五條、第十一條ノ一及第十一條ノ二ノ場合ヲ除クノ外砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ消費稅納付前ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ他ニ引渡シ又ハ政府ノ承認ヲ受ケスシテ之ヲ製造場外ニ移出スルコトヲ得ス（同上）

命令ノ定ムル所ニ依リ政府ノ承認ヲ受ケ消費稅納付前砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造場外ニ移出シタル場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

前項ニ依リ移出シタル砂糖、糖蜜又ハ糖水ニシテ其ノ移出先ニ移入セラレサルトキハ移入者ヨリ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第八條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキ亦同シ

第八條ノ二 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ同一ノ場所ニ於テ砂糖、糖蜜若ハ糖水ノ販賣業又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造場ト販賣場又ハ砂糖、糖蜜若ハ糖水ヲ原料トスル砂糖、糖蜜若ハ糖水以外ノ物品ノ製造場トヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス（明治四三年法律第三三號追加）

第九條 砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ（明治四三年法律第三三號改正）

第十條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ所持ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ製造、出入ニ關スル帳簿書類及其ノ製造又ハ販賣上必要ナル建築物、器械、材料其ノ他ノ物件ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得（同上）

第十一條ノ一 政府ノ承認ヲ受ケ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖及糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス（明治三五年法律第二一號大正五年法律第三八號改正）

第一項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取リタル後六箇月以內ニ砂糖、糖水又ハ酒精ヲ製造セサルトキハ消費稅ヲ徵收ス但シ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルモノニシテ政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ此ノ限ニ在ラス（明治三八年法律第二六號大正五年法律第三八號改正）

前項ノ砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ルトキハ其ノ稅金ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

第四條第二項及第三項ノ規定ハ第二項ノ規定ニ依ル擔保ニ之ヲ準用ス（大正五年法律第三八號改正）

第十一條ノ二 政府ノ承認ヲ受ケ飲食スヘカラサル處置ヲ施シ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取ラルル糖蜜ニハ消費稅ヲ課セス（明治三五年法律第二一號追加大正五年法律第三八號改正）

第十一條ノ三 左ノ各號ノ一ニ該當スル場合ニ於テハ砂糖ヲ製造シタルモノト看做ス（明治四三年法律第三三

（追加）

一　砂糖ニ加工ヲ爲シテ其ノ種別ヲ上昇シタルトキ

二　砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水以外ノ物品ヲ混和シ其ノ種別ヲ上昇シ又ハ其ノ數量ヲ增加シタルトキ但シ其ノ種別ヲ下降シタルトキ又ハ水ノミヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

三　第八條ノ規定ニ依リ申告ヲ爲シタル製造場ニ於テ砂糖、糖蜜又ハ糖水ニ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキ但シ糖蜜又ハ糖水ニ同種ノ糖蜜又ハ糖水ヲ混和シタルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　政府ノ承認ヲ受ケ消費稅ヲ課セラレタル砂糖ヲ以テ製造スル糖水ニ付テハ本法ヲ適用セス（大正五年法律第三八號改正）

第十三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅六圓未滿ナルトキハ罰金額ハ三十圓トス（同上）

一　第六條又ハ第七條第一項ノ規定ニ違反シタルトキ

二　政府ニ申告セスシテ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造シタルトキ

三　前二號ニ該當スル場合ヲ除クノ外詐僞其ノ他不正ノ行爲ヲ以テ消費稅ヲ逋脫シ又ハ逋脫ヲ圖リタルトキ

第十三條ノ二　第八條ノ二ノ規定ニ違反シタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス但シ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ原料トスル物品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル（明治四三年法律第三三號追加大正五年法律第三八號改正）

第十四條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者、之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者、砂糖、糖蜜又ハ糖水ノ製造、出入ニ關シ帳簿ノ記載又ハ事實ノ申告ヲ詐リ若ハ怠リタルトキハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス（明治四三年法律第三三號大正五年法律第三八號改正）

第十五條　收稅官吏其ノ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ其ノ執行ヲ拒ミ又ハ之ヲ忌避シ又ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三十圓以下ノ罰金又ハ三圓以上ノ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル（同上）

第十六條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用ヰス（大正五年法律第三八號改正）

第十七條　砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者之ヲ販賣スル者又ハ第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス（明治四三年法律第三三號改正）

第十七條ノ二　本法ニ於テ保稅地域ト稱スルハ關稅法ノ定ムル所ニ依ル（大正五年法律第三八號追加）

附　則

第十八條　本法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十九條　本法施行前ヨリ引續キ砂糖、糖蜜又ハ糖水ヲ製造スル者ハ本法施行後一箇月以內ニ

其ノ旨ヲ政府ニ申告スヘシ
前項ニ違反シタル者ニハ第十三條ヲ適用ス

附　則（明治三十五年三月法律第二十一號）

本法施行前ニ於テ消費稅ヲ課セラレタル砂糖及糖蜜ヲ本法施行後ニ於テ砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ使用スルトキハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（明治四十一年二月二十二日法律第一號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年四月一日法律第三十三號）

非常特別稅法中砂糖消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス
本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十四年四月一日法律第五十七號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年四月十九日法律第三十八號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二　砂糖消費稅法施行規則（明治三十四年八月勅令第百六十九號）

◎改正（明治三十五年三月勅令第五十一號）（明治三十五年十一月勅令第二百五十二號）（明治三十七年四月勅令第百八號）（明治三十八年五月勅令第百七十號）（明治四十三年二月勅令第四十八號）（明治四十三年五月勅令第二百二十四號）（大正三年三月勅令第三十四號）（大正五年四月勅令第百十五號）

第一條　砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記シ所轄稅務署ニ申告スヘシ
第二條　製造場ハ敷地ノ連續スルト否トヲ問ハス總テ一製造場ト認ムヘキモノヲ謂フ
第三條　所轄稅務署ニ於テ必要ト認メ砂糖製造場ノ圖面又ハ製造用器具、器械ノ目錄ヲ提出スヘキコトヲ命シタルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者ハ之ヲ提出スルコトヲ要ス
第四條　砂糖、糖蜜、糖水製造者ハ製造著手ノ時期ヲ定メ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ製造休止後更ニ著手セムトスルトキ亦同シ
第五條　第一條及第四條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ其ノ都度所轄稅務署ニ申告スヘシ
第六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
第七條　收稅官吏ハ隨時砂糖、糖蜜、糖水ノ製造場ニ就キ砂糖、糖蜜、糖水、其ノ原料品、製

造用器具、器械又ハ帳簿、書類ヲ檢査スヘシ

第八條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水製造者ノ貯藏ニ係ル砂糖、糖蜜、糖水、其ノ貯藏場又ハ其ノ製造用器具、器械ニ封印ヲ施スコトヲ得

第九條　砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ砂糖、糖蜜、糖水ヲ製造場外ニ移出セムトスル者ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別、斤數、移出ノ日、移出先、移入者及移出先到達豫定日ヲ定メ所轄稅務署ニ申告スヘシ（大正三年勅令第三四號同五年勅令第一一五號改正）

前項ノ申告アリタルトキハ取締上支障ナシト認ムル場合ニ限リ移出ノ承認ヲ爲スヘシ（大正三年勅令第三四號改正）

前項ノ承認ヲ爲シタル場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ砂糖、糖蜜、糖水ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得（同上）

第九條ノ二　內地移入糖ハ砂糖消費稅法第七條第二項ニ依リ大藏大臣ノ指定シタル移入場ニ移入スヘシ（大正三年勅令第三四號追加）

第九條ノ三　移入場ノ指定ハ移入場主ノ申請ニ因リ之ヲ爲ス（同上）

前項ノ指定ヲ受ケムトスル者ハ倉庫ノ所在地、名稱、所有者ノ住所氏名又ハ名稱其ノ他必要ナル事項ヲ記載シタル申請書ニ土地、建物ノ詳細ナル圖面ヲ添附シ大藏大臣ニ提出スヘシ

大藏大臣ハ必要アリト認ムルトキハ移入場主ニ對シ內地移入糖ノ藏置ニ關シ條件ヲ指定シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ニ關シ相當ナル設備ヲ爲サシムルコトヲ得

前項ノ條件ニ從ハス又ハ設備ヲ爲ササルトキハ移入場ノ指定ヲ取消シ又ハ內地移入糖ノ移入ヲ停止スルコトヲ得

第九條ノ四　內地移入糖ヲ積載シタル船舶移入地ニ到達シタルトキハ船長ハ到達ノ時ヨリ二十四時間內ニ其ノ旨移入地所轄稅務署ニ申告シ且當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出スヘシ（同上）

第九條ノ五　移入地ニ到達シタル內地移入糖ハ收稅官吏ノ指揮ニ從ヒ積卸ヲ爲シ移入場ニ庫入スヘシ（同上）

第九條ノ六　移入場庫入前內地移入糖ニ付砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依ル原料引取ノ申告ヲ爲シ移入地所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ移入場ニ庫入ヲ爲サスシテ直ニ之ヲ砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造場ニ引取ルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ移入場ニ庫入アリタルモノト看做シ引取ノ承認ヲ爲シタルトキヲ以テ移入場ヨリ引取リタルモノト看做ス（同上）

第九條ノ七　內地移入糖ノ移入者ハ當該官廳ノ下付シタル移出承認書ノ回付ヲ受ケ置キ內地移入糖ヲ移入シタルトキ之ヲ所轄稅務署ニ提出シ移入ノ證明ヲ受クヘシ（同上）

第九條ノ八　內地移入糖ヲ船積シタル後移入者ニ於テ其ノ移入地ヲ變更セムトスルトキハ其ノ旨新移入地所轄稅務署ニ申告シ其ノ承認ヲ受クヘシ（同上）

第九條ノ九　內地移入糖ヲ船積シタル後移入地到達前ニ於テ內地移入糖ノ積換ヲ爲サムトスルトキハ船長ハ其ノ旨最寄稅務署ニ申告シ當該官廳ノ證明シタル積載明細書ヲ提出シ其ノ承認

ヲ受クヘシ（同上）

前項ニ依リ積換ヲ爲シタルトキハ船長ハ前項積載明細書ニ準シ更ニ積載明細書ヲ作成シ當該稅務署ニ提出シテ其ノ證明ヲ受クヘシ

第九條ノ十　船積シタル內地移入糖天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ船長ハ直ニ最寄稅務署ニ其ノ事實ヲ申告シ證明書ノ下付ヲ受クヘシ（大正三年勅令第三四號追加大正五年勅令第一一五號改正）

前項ノ證明書又ハ當該官廳ノ下付シタル亡失證明書ハ第九條ノ四ノ規定ニ依ル積載明細書ノ提出ト同時ニ移入地所轄稅務署ニ之ヲ提出シ其ノ承認ヲ受クヘシ

第九條ノ十一　移入場ニ於ケル內地移入糖ノ藏置ニ關シテハ收稅官吏ノ指揮ニ從フヘシ（大正三年勅令第三四號追加）

第九條ノ十二　所轄稅務署ニ於テ必要アリト認ムルトキハ移入場ニ於ケル藏置期間ヲ指定スルコトヲ得（同上）

第十條　製造場又ハ保稅地域ヨリ砂糖、糖蜜、糖水ヲ引取ラムトスル者ハ引取ノ目的及砂糖消費稅法第三條ノ種別、斤數ヲ所轄稅務署ニ申告スヘシ（大正三年勅令第三四號改正）

第十一條　砂糖消費稅法第四條第一項但書、同法第五條第一項、同法第十一條ノ一第一項又ハ同法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前條ノ申告ト同時ニ其ノ旨所轄稅務署ニ申請スヘシ（大正五年勅令第一一五號改正）

砂糖消費稅法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ前項申請ノ際引取ノ時期竝輸出先又ハ製造スヘキモノノ種類、製造ノ場所及時期ヲ申告スヘシ

砂糖消費稅法第五條第一項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ニ付テハ第九條第三項ヲ準用ス（同上）

第十一條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ原料引取ノ承認ヲ請フ者アル場合ニ於テ所轄稅務署ニ於テ必要ト認ムルトキハ毎回ノ引取斤數ヲ制限スルコトヲ得（大正三年勅令第三四號追加）

第十一條ノ三　砂糖消費稅法第十一條ノ二ノ適用ヲ受ケムトスル者糖蜜ニ飲食スヘカラサル處置ヲ施サムトスルトキハ其ノ方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ（大正五年勅令第一一五號追加）

第十一條ノ四　砂糖消費稅法第十二條ノ適用ヲ受ケムトスル者ハ豫メ糖水ノ製造方法ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ（同上）

前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署ハ糖水ノ原料タル砂糖ノ種別ヲ制限スルコトヲ得（同上）

第十一條ノ五　砂糖消費稅法第五條第一項、同法第七條第二項又ハ同法第十一條ノ一第一項ニ依リ製造場又ハ保稅地域ヨリ引取リ又ハ移出シタル砂糖、糖蜜、糖水ニシテ天災其ノ他已ムコトヲ得サル事由ニ因リ亡失シタルトキハ引取人又ハ移入者ハ其ノ事實ヲ引取ノ場所又ハ移入地ヲ管轄スル稅務署ニ申告シテ其ノ承認ヲ受クヘシ（同上）

前項ノ場合ニ於テ亡失シタル場所カ前項稅務署ノ管轄外ナルトキハ最寄稅務署ニ亡失ノ事實ヲ申告シテ證明書ノ下付ヲ受ケ前項申告ノ際之ヲ提出スヘシ

前二項ノ規定ハ第九條ノ十ノ場合ニ之ヲ適用セス

第十二條　第十條ノ申告アリタルトキハ所轄稅務署ハ砂糖消費稅法第三條ノ種別及斤數ヲ査定シ其ノ直ニ消費稅ヲ徵收スヘキモノハ其ノ徵收ノ手續ヲ爲シ其ノ擔保ノ提供ヲ要スルモノハ提供スヘキ擔保額ヲ指定スヘシ但シ豫メ納稅擔保ヲ提供シタルモノニ付テハ其ノ都度擔保額ノ指定ヲ要セス（明治三五年勅令第五一號同四三年勅令第八號改正）

第十三條　收稅官吏ハ金庫所在地外ニ限リ自ラ消費稅金ノ領收ヲ取扱フコトヲ得

納稅義務者ハ金庫所在地外ニ在ル製造場ヨリ千斤未滿ノ第一種若ハ第二種砂糖又ハ糖蜜ヲ引取ル場合ニ限リ收入印紙ヲ以テ砂糖消費稅ヲ納ムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ砂糖消費稅査定書ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ニ消印スヘシ（明治三七年勅令第一〇八號改正）

東京府管下、鹿兒島縣管下ノ島嶼及沖繩縣ニ於テハ前項斤數ノ制限ニ依ラサルコトヲ得（明治三八年勅令第一七〇號追加）

第十四條　收稅官吏ハ口頭ヲ以テ納稅告知ヲ爲スコトヲ得

第十五條　擔保物ノ種類ハ左ニ揭クルモノニ限ル（明治三五年勅令第五一號同四三年勅令第八號改正）

一　金錢
二　稅務署長ニ於テ確實ト認ムル有價證券
三　工場財團

第十五條ノ二　擔保物ノ價格ハ特別ノ規定アルモノヲ除クノ外稅務署長ノ定ムル所ニ依ル（明治四三年勅令第八號追加）

第十五條ノ三　擔保トシテ金錢、有價證券ヲ提供セムトスル者ハ之ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ提出スヘシ（同上）

擔保トシテ工場財團ヲ提供シタル者アルトキハ稅務署長ハ抵當權ノ登記ヲ登記所ニ囑託スヘシ但シ臺灣ニ於ケル工場財團ヲ提供シタルトキハ胎權設定ノ手續ヲ爲スヘシ（明治四三年勅令第二二四號改正）

第十六條　稅務署長ニ於テ擔保物ノ價格減少シタリト認ムルトキハ增擔保ヲ提供セシムルコトヲ得（明治四三年勅令第八號改正）

擔保トシテ提供シタル有價證券ノ償却ヲ受クルニ至リタルトキハ所轄稅務署ハ擔保提供者ヲシテ直ニ之ニ代ルヘキ擔保ヲ提供セシムヘシ

前二項ニ保ノ擔保ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十七條　砂糖、糖蜜、糖水ノ製造者又ハ稅關ハ砂糖、糖蜜、糖水ノ引渡ヲ爲ストキハ引取者ヲシテ消費稅納付濟、擔保提供濟又ハ無擔保引取承認濟ナルコトヲ證明セシムルコトヲ要ス（明治三五年勅令第五一號大正三年勅令第三四號改正）

第十八條　砂糖消費稅法第五條第一項ノ砂糖、糖蜜、糖水ニ付輸出ノ證明ヲ爲サムトスルトキハ引取後六月內ニ左ノ書類ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ但シ已ムコトヲ得サル事由ニ因リ第二號ノ書類ヲ提出スルコト能ハサルトキハ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタル場合ニ限リ第一號ノ書類ノミヲ以テ證明ヲ爲スコトヲ得（大正五年勅令第一一五號改正）

一　輸出免狀又ハ之ニ代ルヘキ書類(大正五年勅令第一一五號改正)

二　外國輸入港稅關ノ輸入免狀又ハ外國ニ陸揚シタルコトヲ證スヘキ書類

第十八條ノ二　砂糖消費稅法第十一條ノ一第一項ニ依リ引取リタル砂糖、糖蜜ヲ原料トシテ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタル場合ニ於テ砂糖、糖蜜ヲ引取リタル場所ヲ管轄スル稅務署ト砂糖、糖水、酒精ノ製造場ヲ管轄スル稅務署ト異ナルトキハ砂糖、糖水、酒精ヲ製造シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ砂糖、糖蜜ヲ引取リタル場所ヲ管轄スル稅務署ニ提出スヘシ(明治三五年勅令第五一號追加大正五年勅令第一一五號改正)

第十九條　砂糖消費稅法第四條第二項、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保物ヲ公賣ニ付スヘキトキハ之ヲ公告シ公告ノ初日ヨリ少クトモ三日ヲ經過シタル後之ヲ公賣スヘシ(明治三五年勅令第五一號大正五年勅令第一一五號改正)

第二十條　前條ノ公告ニハ擔保提供者ノ住所、氏名又ハ名稱、公賣財産ノ種類、金額、公賣ノ場所及時其ノ他必要ノ事項ヲ記載スヘシ(明治四三年勅令第八號改正)

第二十一條　公賣決行前ニ消費稅及費用ヲ完納シタルトキハ公賣ヲ中止スヘシ

第二十二條　砂糖消費稅法第四條第二項但書、第五條第四項及第十一條ノ一第四項ニ依リ擔保提供者ニ還付スヘキ殘金アルトキハ之ヲ供託スルコトヲ得(明治三五年勅令第五一號大正五年勅令第一一五號改正)

第二十三條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖、糖蜜ハ他ノ砂糖又ハ糖蜜ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ(明治三五年勅令第五一號改正)

第二十四條　砂糖、糖水又ハ酒精製造ノ原料トシテ引取リタル砂糖又ハ糖蜜ヲ使用セムトスルトキハ豫メ收稅官吏ニ申告シテ其ノ檢査ヲ受クヘシ(同上)

第二十五條　前條砂糖、糖水又ハ酒精ノ製造ヲ終リタルトキハ相當期間內ニ其ノ使用シタル原料ノ種類、量目及製造シタルモノノ種類、量目ヲ收稅官吏ニ申告スヘシ(同上)

第二十五條ノ二　收稅官吏職務ノ爲內地移入糖ヲ積載スル船舶ニ乘込ムトキハ船長ハ相當ノ便宜ヲ與フヘシ(大正三年勅令第三四號追加)

第二十五條ノ三　收稅官吏ハ內地移入糖ヲ積載スル船舶ニ就キ內地移入糖又ハ之ニ關スル帳簿書類等ヲ檢査スルコトヲ得(同上)

收稅官吏必要ト認ムルトキハ內地移入糖ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトヲ得

第二十六條　砂糖、糖蜜、糖水製造者又ハ砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ(明治四三年勅令第二二四號改正)

一　原料ノ種類、量目、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、量目及其ノ使用ノ日

三　製造シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル砂糖、糖蜜、糖水又ハ砂糖、糖蜜、糖水ヲ原料トスル物品ノ種類、量目、

價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十七條 砂糖、糖蜜、糖水ヲ販賣スル者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一 引取リタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二 販賣シタル砂糖、糖蜜、糖水ノ種類、量目、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ノ記載ヲ要セス

第二十八條 收稅官吏ハ砂糖、糖蜜、糖水製造者及販賣者竝砂糖消費稅法第八條ノ二但書ノ場合ニ於ケル物品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス（明治四三年勅令第二三四號改正）

第二十八條ノ二 本令ニ於テ內地移入糖ト稱スルハ臺灣ヨリ移出シ內地又ハ樺太ヘ移入スル砂糖、糖蜜、糖水ヲ謂フ（大正三年勅令第三四號追加）

第二十九條 本令中稅務署ニ屬スル事務ハ保稅地域ヨリ引取ラルル砂糖ニ關シテハ稅關之ヲ行フ（明治三五年勅令第二五二號大正三年勅令第三四號改正）

附　則

第三十條 砂糖消費稅法第十九條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シテ所轄稅務署ニ申告スヘシ

附　則（明治三十五年三月勅令第五十一號）

本令ハ明治三十五年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十五年法律第二十一號附則ノ規定ニ依ルヘキ場合ニ於テハ仍從前ノ規定ニ依ル

附　則（明治三十五年十一月勅令第二百五十二號）

本令ハ明治三十五年十一月五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十七年四月勅令第百八號）

本令ハ明治三十七年四月十五日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年二月九日勅令第八號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年五月十日勅令第二百二十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正三年三月十九日勅令第三十四號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（大正五年四月十九日勅令第百十五號）

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

露光量違いの為重複撮影

三 砂糖消費税法ヲ臺灣、樺太ニ施行スルノ件

(1)砂糖消費税法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（明治三十四年八月勅令第百五十五號）

砂糖消費税法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

前項ノ法律ノ施行規則ハ臺灣總督之ヲ定ム

(2)砂糖消費税法ヲ樺太ニ施行スルノ件（明治四十二年五月勅令第百五十二號）

砂糖消費税法「及非常特別税法中織物消費税ニ關スル規定」ハ之ヲ樺太ニ施行ス

前項ノ法律施行ニ關スル事務ハ樺太廳支廳之ヲ行フ但シ税關又ハ保税倉庫ヨリ引取ラルル砂糖「及織物」ニ關シテハ税關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（注意）「非常特別税法中織物消費税ニ關スル規定」ハ明治四十三年織物消費税法ノ制定ニ伴ヒ同法附則ノ規定ニ依リ自然消滅

織物消費税

○織物消費税法

○織物消費税法施行規則

露光量違いの為重複撮影

三　砂糖消費稅法ヲ臺灣、樺太ニ施行スルノ件

(1) 砂糖消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（明治三十四年八月勅令第百五十五號）

砂糖消費稅法ハ明治三十四年十月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

前項ノ法律ノ施行規則ハ臺灣總督之ヲ定ム

(2) 砂糖消費稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件（明治四十二年五月勅令第百五十二號）

砂糖消費稅法「及非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定」ハ之ヲ樺太ニ施行ス

前項ノ法律施行ニ關スル事務ハ樺太廳支廳之ヲ行フ但シ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル砂糖「及織物」ニ關シテハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（注意）「非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定」ハ明治四十三年織物消費稅法ノ制定ニ伴ヒ同法附則ノ規定ニ依リ自然消滅

織物消費稅

○織物消費稅法

○織物消費稅法施行規則

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一二）

織物消費税表（大正七年度）

種別	課税價格 内地製	課税價格 外國製	課税價格 計	税額
絹織物	七六、二二六、一四〇円	三三九、三三三円	七六、五五五、四七三円	七、六五四、九八四円
綿織物	八五、五〇二、八二三	六、六七五、七七三	九二、一七八、五九六	九、二一六、八五二
其他織物	五五、二五七、二〇二	一二、一七四、八三二	六七、四三二、〇三四	六、七四三、八〇一
計	二一六、九七六、一六五	一九、一八九、九三八	二三六、一七六、一〇三	二三、六一四、六三七
（參照）				
大正六年度	一八三、一九〇、五四三	一三、六三二、九四〇	一九六、八二三、四八三	一九、六八〇、四八七
同　五年度	一五八、一三八、九四七	一一、四二〇、〇六二	一六九、五五九、〇〇九	一六、九五三、一六八
同　四年度	一五〇、六二九、九二八	八、〇一八、四五八	一五八、六四八、三八六	一五、八六三、〇九九
同　三年度	一五〇、六一六、七四〇	一四、一五四、五一一	一六四、七七一、二五一	一六、四七五、四九二

第十一章　織物消費税

一　織物消費税法（明治四十三年三月法律第七號）

◎改正（大正八年三月法律第三十三號）

第一條　織物ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　消費税ノ税率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第三條　左ニ掲クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物

二　製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費税ヲ納付シタル織物ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費税ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費税ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費税額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

露光量違いの為重複撮影

（租稅統計ノ一二）

織物消費稅表（大正七年度）

種別	課稅價格 內地製	課稅價格 外國製	課稅價格 計	稅額
絹織物	七六、二一六、一四〇円	三三九、三三三円	七六、五五五、四七三円	七、六五四、九八四円
綿織物	八五、五〇二、八二三	六、六七五、七七三	九二、一七八、五九六	九、二一六、八五三
其他織物	五五、二五七、二〇一	一二、一七四、八三三	六七、四三二、〇三四	六、七四二、八〇一
計	二一六、九七六、一六四	一九、一八九、九三九	二三六、一六六、一〇三	二三、六一四、六三七
（參照）				
大正六年度	一八三、一九〇、五四三	一三、六三二、九四〇	一九六、八二三、四八三	一九、六八〇、四八七
同　五年度	一五八、一三八、九四七	一一、四一〇、〇六二	一六九、五四九、〇〇九	一六、九五三、一六八
同　四年度	一五〇、六二九、九二八	八、〇一八、四五八	一五八、六四八、三八六	一五、八六三、〇九九
同　三年度	一五〇、六一六、七四〇	一四、一五四、五三一	一六四、七七一、二七一	一六、四七五、四九三

第十一章　織物消費稅

一　織物消費稅法（明治四十三年三月法律第七號）

◎改正（大正八年三月法律第三十三號）

第一條　織物ニハ本法ニ依リ消費稅ヲ課ス

第二條　消費稅ノ稅率ハ織物ノ價格百分ノ十トス

第三條　左ニ揭クルモノニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ免除ス

一　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物

二　製造者カ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル爲自ラ製造シタル織物

消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅額ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費稅ハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ但シ命令ノ定ムル所ニ依リ製造者ニ於テ織物ニ其ノ價格ヲ表記シ消費稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ代フルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ製造者ヲ以テ引取人ト看做ス

印紙ヲ貼用スル場合ニ於テ消費稅額一錢未滿ノ端數ハ總テ一錢トシテ計算ス

第五條　消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以內消費稅ノ徵收ヲ猶豫ス

第六條　消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者ハ其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受クルコトヲ得

第七條　左ニ揭クル場合ニ於テハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費稅ヲ納付セスシテ織物ヲ引取ルコトヲ得

一　他ノ製造場ニ移出シ又ハ藏置場ニ藏置スル爲織物ヲ引取ルトキ

二　染色、捺染、刺繡其ノ他ノ加工ヲ爲ス爲製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

三　一定ノ場所ニ於テ消費稅ヲ納付スル爲政府ノ定メタル條件ニ從ヒ製造場又ハ藏置場ヨリ織物ヲ引取ルトキ

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第八條　消費稅ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル織物ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戾入シタル場合ニ於テ其ノ種類及數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ織物ヲ製造場ヨリ引取ルモ更ニ消費稅ノ徵收ヲ爲サス

第九條　第四條第一項但書乃第七條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ル者ハ引取ノ際織物ノ價格ヲ政府ニ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ其ノ申告シタル價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定ス

織物引取人前項ノ評定價格ニ不服アルトキハ即時異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得

異議ノ申立アリタルトキハ二人以上ノ鑑定人ヲ選定シ其ノ意見ヲ徵シ政府之ヲ決定ス

異議申立人ノ主張ニ依ル價格ト前項ノ決定價格トノ差カ第二項ノ評定價格ト前項ノ決定價格トノ差ヨリ大ナルトキハ鑑定ニ關スル費用ハ其ノ申立人ノ負擔トス

印紙ヲ貼用シタル織物ノ表記價格ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ織物ノ價格ヲ評定シ其ノ差額ニ對スル消費稅ヲ追徵ス此ノ場合ニ於テハ前三項ノ規定ヲ準用ス

第十條　第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ織物ヲ引取ルコトヲ得ス

第十一條　織物製造者ハ第五條又ハ第七條ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ織物ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十二條　織物ヲ製造又ハ販賣セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ但シ第三條第一項第二號ニ該當スル織物ノミヲ製造セムトスル者ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　織物製造者ハ同一ノ場所ニ於テ織物ノ販賣業又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認許ヲ得織物ノ製造場ト販賣場又ハ織物ヲ原料トスル製品ノ製造場トヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十四條　織物ノ製造者、販賣者及前條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ帳簿ヲ備ヘ織物又ハ製品ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十五條　收稅官吏ハ織物ノ製造場、販賣場又ハ第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造場ニ立入リ織物、原料、織物ヲ原料トシテ製造シタル物品、器具、機械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

第十六條　收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

收稅官吏ハ運搬中ニ在ル織物ヲ檢査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認ムルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ徵收ス但シ消費稅四圓未滿ナルトキハ罰金額ハ二十圓トス

一　第十二條但書ニ該當スル場合ヲ除クノ外政府ニ申告セスシテ織物ヲ製造シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲若ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出スル爲消費稅ヲ免除セラレタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ內地ニ於テ消費シ又ハ內地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三　消費稅納付前又ハ擔保提供前ニ於テ織物ヲ消費シタルトキ

四　第七條ニ依リ引取リタル織物ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セサルトキ

五　第十條又ハ第十一條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十八條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ第一號ノ場合ニ於テ織物ヲ原料トスル製品ヲ製造シタルトキハ前條ノ例ニ依ル

一　第十三條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者織物又ハ製品ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三　命令ノ定ムル方法ニ依リ織物ニ價格ヲ表記セス又ハ印紙ヲ貼用セサルトキ

四　收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミタルトキ

第十九條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ刑ノ減免及刑法第四十八條第二項ノ例ヲ用ヰス

第二十條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ織物ノ製造者、販賣者又ハ第十三條但書ノ場合ニ於ケル製品ノ製造者ヲ處罰ス

第二十二條　政府ハ織物ノ製造者又ハ販賣者ノ組織スル組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ

又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得（大正八年法律第三三號追加）

前項ノ組合ニ對シ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ賦課シタル織物ノ價額ノ千分ノ一以內ノ金額ヲ交付スルコトヲ得

附　則

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中織物消費稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス但シ同規定ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本法ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附　則（大正八年三月法律第三十三號）

本法ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

二　織物消費稅法施行規則（明治四十三年三月勅令第百八十五號）

○改正（大正八年三月勅令第四十五號）

第一條　本令ニ於テ製造者又ハ製造セムトスル者ト稱スルハ自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ノミヲ製造シ又ハ製造セムトスル者ヲ包含セス

第二條　織物ヲ製造セムトスル者ハ製造場及製造スヘキ種類ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有シテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ販賣場ヲ定メ販賣場所轄稅務署ニ申告スヘシ

販賣場ヲ有セスシテ織物ヲ販賣セムトスル者ハ其ノ居所所轄稅務署ニ其ノ旨申告スヘシ

第三條　製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第四條　所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ織物製造者ニ織物製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、機械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第五條　織物製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有スル者販賣場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ販賣場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

織物販賣者ニシテ販賣場ヲ有セサル者其ノ居所ヲ移轉シタルトキハ其ノ旨移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條　織物製造者期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條　第二條若ハ前條ノ規定ニ依リ申告シタル事項又ハ第四條ノ規定ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條　織物製造業又ハ販賣業ヲ相續シタル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ
織物製造業又ハ販賣業ヲ讓渡シタル者ハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條　織物製造者又ハ販賣者其ノ製造又ハ販賣ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十條　外國ニ輸出スル織物又ハ製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ但シ輸出ノ目的ヲ以テ製造セラルル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタル場合ニ於テハ承認ノ省略ヲ爲スコトヲ得製品ト爲シテ外國ニ輸出セムトスル織物ノミヲ製造スル製造場ニシテ所轄稅務署ニ於テ取締上不都合ナシト認メタルトキ亦同シ
前項ノ場合ニ於テ所轄稅務署カ織物又ハ其ノ製品ノ運搬、藏置其ノ他ノ事項ニ付條件ヲ指定シタルトキハ其ノ條件ニ從フニ非サレハ消費稅ノ免除ヲ受クルコトヲ得ス

第十一條　消費稅ヲ納付シタル織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ消費稅ヲ納付シタルコトノ證憑ヲ具シ輸出港稅關ニ其ノ郵便ニ依リ輸出シタル場合ニ於テハ所轄稅務署ニ之ヲ申請スヘシ
前項ノ規定ニ依リ交付金ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際豫メ輸出港稅關ニ其ノ旨申告スヘシ但シ郵便ニ依リ輸出スルモノハ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ此ノ場合ニ於テハ前條ノ規定ヲ準用ス

第十二條　消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタル場合ニ於テ消費稅ノ免除ヲ得ムトスルトキハ其ノ織物又ハ之ヲ以テ製造シタル物品ヲ外國ニ輸出シタルコトノ證憑ヲ具シ之ヲ所轄稅務署ニ申請スヘシ
前條第二項ノ規定ハ前項ノ消費稅ノ免除ニ關シ之ヲ準用ス

第十三條　織物製造者自己又ハ其ノ家族ノ用ニ供スル織物ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル場合ニ於テハ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第十四條　織物消費稅法第七條ノ規定ニ依リ織物ヲ引取ラムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ
第十條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十五條　織物消費稅法第九條第一項ニ依ル價格ノ申告ハ所轄稅務署ニ之ヲ爲スヘシ

第十六條　織物消費稅法第四條第一項但書ノ規定ニ依リ織物ニ印紙ヲ貼用シテ消費稅ノ納付ニ

代ヘムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告シ承認ヲ受クヘシ

第十七條　織物ニ印紙ヲ貼用スル場合ニ於テハ織物ニ其ノ價格及製造者ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ相當印紙ヲ貼用シ織物面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スヘシ但シ印紙貼用者ハ結目ナキ絲ヲ以テ紙片ヲ織物ニ縫著シ紙片ニ價格及住所、氏名又ハ名稱ヲ表記シ其ノ絲ノ結束シタル場所ニ相當印紙ヲ貼用シ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケテ之ニ消印スルコトヲ得

第十八條　消費稅ヲ納付シ又ハ消費稅額ニ相當スル擔保ヲ提供シタル者其ノ織物ニ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ此ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ織物又ハ織物ニ縫著シタル紙片ニ納稅濟ノ旨ヲ記載シタル切符ヲ貼付シ又ハ納稅濟ノ證印ヲ押捺スヘシ

前項ノ規定ニ依リ納稅濟證印ノ押捺ヲ受ケ又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ受ケタル織物ニ加工セムトスル場合ニ於テ所轄稅務署ノ承認ヲ受ケタルトキハ加工後更ニ納稅濟證印ノ押捺又ハ納稅濟證ノ貼付ヲ請求スルコトヲ得

第十九條　金庫所在地以外又ハ金庫閉鎖後ニ於テハ收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第二十條　擔保物ノ種類ハ金錢又ハ所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第二十一條　擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ノ規定ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第二十二條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物返付ノ手續ヲ爲スヘシ

第二十三條　消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ順次ニ公賣ノ費用及稅金ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第二十四條　織物製造者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタル者ニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル種類、數量及製造ノ日

四　他ニ引渡シタル種類、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第二十五條　織物販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル種類、數量、價額、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱
二　販賣シタル種類、數量、價額、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱
小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十六條　本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十七條　收稅官吏ハ織物ノ製造者、販賣者又ハ織物消費稅法第十三條但書ニ該當スル製品ノ製造者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十八條　本令中稅務署ニ屬スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

第二十九條　織物消費稅法第二十二條第一項ノ規定ニ依リ稅務署長ハ織物組合ニ對シ徵稅上必要ナル設備ヲ爲シ又ハ徵收事務ノ補助ヲ爲スヘキコトヲ命スルコトヲ得（大正八年勅令第四五號追加）

前項ノ織物組合ニ對シテハ左ノ二期ニ分チ每期間內ニ於テ其ノ取扱ヒタル織物中消費稅ヲ賦課シタル織物ノ課稅價額ノ千分ノ一ニ相當スル交付金ヲ交付ス

前期　其ノ年四月ヨリ同九月迄
後期　其ノ年十月ヨリ翌年三月迄

第三十條　前條ノ織物組合同條第一項ノ命令ニ違反シタルトキハ交付金ノ全部又ハ一部ヲ交付セサルコトヲ得（大正八年勅令第四五號追加）

附　則

本令ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法施行規則ニ依リ爲シタル處分又ハ行爲ハ本令ニ依リ爲シタルモノト看做ス

附　則（大正八年三月勅令第四十五號）

本令ハ大正八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

露光量違いの為重複撮影

三 織物消費稅法ヲ臺灣、樺太ニ施行スルノ件

(1) 織物消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（明治四十三年三月勅令第百八十七號）

織物消費稅法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

(2) 織物消費稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件（明治四十三年四月勅令第二百五號）

織物消費稅法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

前項ノ法律施行ニ關スル事務ハ樺太廳支廳之ヲ行フ但シ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

石油消費稅

○石油消費稅法

○石油消費稅法施行規則

露光量違いの為重複撮影

三　織物消費稅法ヲ臺灣、樺太ニ施行スルノ件

(1) 織物消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（明治四十三年三月勅令第百八十七號）

織物消費稅法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ臺灣ニ施行ス

(2) 織物消費稅法ヲ樺太ニ施行スルノ件（明治四十三年四月勅令第二百五號）

織物消費稅法ハ之ヲ樺太ニ施行ス

前項ノ法律施行ニ關スル事務ハ樺太廳支廳之ヲ行フ但シ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル織物ニ關シテハ稅關ニ委託シテ之ヲ行ハシム

石油消費稅

○石油消費稅法

○石油消費稅法施行規則

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一三）

石油消費税表

年度	課税石高 内地油	課税石高 輸入油	課税石高 計	税額
大正七年度	三九二、二九三石	五一三、七九八石	九〇六、〇九一石	九〇六、〇九一円
同 六年度	六〇九、二五六	五一六、二九〇	一、一二五、五四六	一、一二五、五三五
同 五年度	六二七、〇九九	四二〇、〇〇二	一、〇四七、一〇一	一、〇四七、二八五
同 四年度	八四八、九七二	六八九、八八八	一、五三八、八六〇	一、五三八、八四四
同 三年度	七二四、七四六	八〇八、九六〇	一、五三三、七〇六	一、五三三、六九七

第十二章　石油消費税

一　石油消費税法（明治四十一年三月法律第二十一號）

第一條　石油ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　消費税ハ石油一石ニ付金一圓ノ割合トス

第三條　外國ニ輸出スル石油ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費税ヲ免除ス

消費税ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ

第五條　消費税額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以内ノ期間ヲ以テ消費税ノ徴收ヲ猶豫ス

第六條　石油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ之ヲ貯藏場ニ移出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第七條　消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル石油ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ數量ニ相當スル石油ニ付テハ更ニ消費税ノ徴

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一三）

石油消費税表

年度	課税石高 内地油	課税石高 輸入油	課税石高 計	税額
大正七年度	三九二、二九三石	五一三、七九八石	九〇六、〇九一石	九〇六、〇九一円
同　六年度	六〇九、二五六	五一六、二九〇	一、一二五、五四六	一、一二五、五三五
同　五年度	六二七、〇九九	四二〇、〇〇二	一、〇四七、一〇一	一、〇四七、二八五
同　四年度	八四八、九七二	六八九、八八八	一、五三八、八六〇	一、五三八、八四四
同　三年度	七二四、七四六	八〇八、九六〇	一、五三三、七〇六	一、五三三、六九七

第十二章　石油消費税

一　石油消費税法（明治四十一年三月法律第二十一號）

第一條　石油ニハ本法ニ依リ消費税ヲ課ス

第二條　消費税ハ石油一石ニ付金一圓ノ割合トス

第三條　外國ニ輸出スル石油ニハ命令ノ定ムル所ニ依リ其ノ消費税ヲ免除ス

消費税ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シタルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ニ相當スル金額ヲ交付ス

第四條　消費税ハ製造場、税關又ハ保税倉庫ヨリ石油ヲ引取ルトキ引取人之ヲ納付スヘシ

第五條　消費税額ニ相當スル擔保物ヲ提供シタルトキハ政府ハ三月以內ノ期間ヲ以テ消費税ノ徴收ヲ猶豫ス

第六條　石油ハ命令ノ定ムル所ニ依リ消費税ヲ納付セスシテ之ヲ貯藏場ニ移出スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ移出先ヲ以テ製造場ト看做シ移出先ノ營業人ヲ以テ製造者ト看做ス

第七條　消費税ヲ納付シ製造場ヨリ引取リタル石油ヲ再ヒ其ノ製造場ニ戻入シタル場合ニ於テ其ノ數量ニ付政府ノ承認ヲ受ケタルトキハ其ノ數量ニ相當スル石油ニ付テハ更ニ消費税ノ徴

收ヲ爲サス

第八條　製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ル者ハ引取ノ際其ノ數量ヲ政府ニ申告スヘシ

第九條　第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テハ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ルコトヲ得ス

第十條　石油製造者ハ第五條又ハ第六條第一項ニ該當スル場合ヲ除クノ外消費稅納付前ニ於テ石油ヲ他ニ引渡スコトヲ得ス

第十一條　石油ヲ製造セムトスル者ハ政府ニ申告スヘシ

第十二條　石油製造者ハ同一ノ場所ニ於テ石油ノ販賣業ヲ兼營スルコトヲ得ス但シ政府ノ認可ヲ得石油ノ製造場ト販賣場トヲ區劃シタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十三條　石油ノ製造者及販賣者ハ帳簿ヲ備ヘ石油ノ製造出入ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ石油ノ製造場又ハ販賣場ニ立入リ石油、原料、器具、器械、建築物又ハ帳簿書類ヲ檢査スルコトヲ得

收稅官吏ハ監督上必要ト認ムルトキハ前項ノ物件ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十五條　收稅官吏ハ運搬中ニ在ル石油ヲ檢査シ其ノ出所及到著先ヲ質問スルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テ監督上必要ト認メタルトキハ收稅官吏ハ其ノ運搬ヲ停止シ又ハ荷物若ハ船車ニ封印ヲ施スコトヲ得

第十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ消費稅ヲ徵收ス但シ罰金額ハ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

一　政府ニ申告セスシテ石油ヲ製造シタルトキ

二　外國ニ輸出スル爲消費稅ヲ免除セラレタル石油ヲ內地ニ於テ消費シ又ハ內地ニ於テ消費スル目的ヲ以テ之ヲ讓渡シタルトキ

三　第六條第一項ニ依リ移出シタル石油ヲ其ノ定メラレタル場所ニ移入セス又ハ之ヲ消費シタルトキ

四　第九條又ハ第十條ノ規定ニ違反シタルトキ

第十七條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金ニ處ス

一　第十二條ノ規定ニ違反シタルトキ

二　石油ノ製造者又ハ販賣者石油ノ製造出入ニ關スル帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ詐リ若ハ怠リタルトキ

三　收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ其ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタルトキ但シ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル

第十八條　本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十九條　石油ノ製造者又ハ販賣者カ未成年者若ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ

發スル命令ニ依リ本人ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第二十條 石油ノ製造者又ハ販賣者ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ製造者又ハ販賣者ヲ處罰ス

附則

第二十一條 本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第二十二條 本法施行前ヨリ石油ヲ製造シ本法施行後引續キ之ヲ製造セムトスル者ハ本法施行後一月以內ニ其ノ旨政府ニ申告スヘシ

第二十三條 本法ヲ施行セサル地ニ於テ製造又ハ輸入シタル石油ハ本法ト同一ノ稅率ヲ有スル法規ヲ其ノ地ニ施行スル迄ハ本法施行地ニ移入スルコトヲ得ス犯ス者ハ消費稅五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ十圓ヲ下ルコトヲ得ス

前項ノ石油及其ノ容器ハ何人ノ所有ニ屬スルヲ問ハス之ヲ沒收ス

二 石油消費稅法施行規則（明治四十一年三月勅令第四十一號）

第一條 石油ヲ製造セムトスル者ハ製造場ヲ定メ其ノ製造場所轄稅務署ニ申告スヘシ

第二條 製造場ハ其ノ敷地ノ連續セサル場合ニ於テモ之ヲ一製造場ト認ムルコトヲ得

第三條 所轄稅務署ハ必要ト認ムルトキハ石油製造者ニ製造場ノ圖面又ハ製造用ノ器具、器械ノ目錄ヲ提出セシムルコトヲ得

第四條 石油製造者製造場ヲ移轉セムトスルトキハ其ノ製造場ヲ定メ移轉先ノ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第五條 石油製造者ニシテ期間ヲ定メテ製造ヲ爲ストキハ製造ニ著手スル每ニ著手及終了ノ時期ヲ豫メ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第六條 第一條若ハ前條ニ依リ申告シタル事項又ハ第三條ニ依リ提出シタル圖面若ハ目錄ニ記載シタル事項ニ異動ヲ生シタルトキハ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第七條 石油製造業ヲ相續シタルトキハ相續人ヨリ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

石油製造業ヲ讓渡サムトスルトキハ讓受人ト連署シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

第八條 石油製造者其ノ製造ヲ廢止セムトスルトキハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第九條 外國ニ輸出スル石油ニ付消費稅ノ免除ヲ得ムトスル者ハ製造場ヨリ之ヲ引取ル都度所

轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

前項ノ場合ニ於テ收稅官吏ハ必要ト認ムルトキハ其ノ石油ニ封印ヲ施シ、之ヲ護送シ又ハ消費稅ニ相當スル擔保ヲ提供セシムルコトヲ得

消費稅ノ免除ヲ得タル石油ヲ製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取リタル後六月以內ニ外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ所轄稅務署ニ提出セサルトキハ外國ニ輸出セラレサルモノト看做シ引取人ヨリ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十條　消費稅ヲ納付シタル石油ヲ外國ニ輸出シ其ノ消費稅ニ相當スル金額ノ交付ヲ受ケムトスル者ハ輸出ノ際其ノ旨輸出港稅關ニ申告スヘシ

前項ニ依リ輸出ヲ爲シタル者其ノ石油ニ付消費稅ヲ納付シタルコトヲ證スヘキ書類及外國ニ輸出シタルコトヲ證スヘキ書類ヲ添付シ輸出港稅關ニ出願シタルトキハ消費稅ニ相當スル金額ヲ交付ス

第十一條　石油消費稅法第六條ニ依リ石油ヲ移出セムトスル者ハ運搬線路及運搬先ヲ定メ所轄稅務署ノ承認ヲ受クヘシ

第九條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　第九條及前條ノ場合ヲ除クノ外製造場、稅關又ハ保稅倉庫ヨリ石油ヲ引取ラムトスル者ハ其ノ旨所轄稅務署ニ申告スヘシ

第十三條　金庫所在地以外ニ限リ收稅官吏ハ消費稅金ノ領收ヲ爲スコトヲ得

第十四條　擔保物ノ種類ハ金錢及所轄稅務署ノ確實ト認メタル有價證券ニ限ル

擔保物ヲ提供セムトスル者ハ前項ノ擔保物ヲ供託シ其ノ供託受領證ヲ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第十五條　擔保トシテ提供シタル有價證券ノ價格減少シタルトキハ所轄稅務署ハ更ニ相當ノ擔保物ノ提供ヲ命スルコトヲ得

前項ニ依リ擔保物ノ提供ヲ命セラレタル者之ヲ提供セサルトキハ所轄稅務署ハ直ニ消費稅ヲ徵收ス

第十六條　擔保物ヲ提供シタル場合ニ於テ消費稅納付濟ニ至リタルトキ又ハ消費稅免除ノ確定シタルトキハ所轄稅務署ハ擔保物還付ノ手續ヲ爲スヘシ

第十七條　消費稅ヲ徵收スヘキ場合ニ於テ擔保物アルトキハ擔保物ヲ以テ稅金ニ充ツ

前項ノ場合ニ於テ擔保物有價證券ナルトキハ之ヲ公賣ニ付シ消費稅及公賣ノ費用ニ充ツ

前二項ノ場合ニ於テ不足アルトキハ之ヲ追徵シ殘金アルトキハ之ヲ還付ス

第十八條　石油製造者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　原料ノ種類、數量、他ヨリ引取リタルモノニ在リテハ引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　使用シタル原料ノ種類、數量及其ノ使用ノ日

三　製造シタル種類、數量及其ノ製造ノ日

四　他ニ引渡シタル種類、數量、引渡ノ日及其ノ引取人ノ住所、氏名又ハ名稱

第十九條　石油販賣者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル數量、引取ノ日及其ノ引渡人ノ住所、氏名又ハ名稱

二　販賣シタル數量、販賣ノ日及其ノ買受人ノ住所、氏名又ハ名稱

小賣人ノ場合ニ於テハ前項第二號買受人ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スルコトヲ要セス

第二十條　本令ニ依リ所轄稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受クヘキ場合ニ於テ製造場又ハ貯藏場ニ出張シタル收稅官吏ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルトキハ稅務署ニ申告シ又ハ其ノ承認ヲ受ケタルモノト看做ス

第二十一條　收稅官吏ハ石油ノ製造者又ハ販賣者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第二十二條　本令中稅務署ニ關スル事務ハ稅關又ハ保稅倉庫ヨリ引取ラルル石油ニ關シテハ稅關之ヲ行フ

附　則

本令ハ石油消費稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

石油消費稅法第二十二條ニ依リ政府ニ申告スヘキ場合ニ於テハ第一條ニ準シ所轄稅務署ニ申告スヘシ

三　石油消費稅法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（明治四十一年五月十三日勅令第百三十一號）

石油消費稅法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

附　則

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

露光量違いの為重複撮影

[illegible]

本令ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則

石油消費税法ハ之ヲ臺灣ニ施行ス

三　石油消費税法ヲ臺灣ニ施行スルノ件（[illegible]）

石油消費税法第二十二條ニ依リ[illegible]

取引所税

○取引所税法
○取引所税法施行規則
○取引所法
○取引所令

露光量違いの為重複撮影

取引所税

○取引所税法
○取引所税法施行規則
○取引所法
○取引所令

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一四）

取引所税表（大正七年度）（取引所數仲買人員年度末現在）

種別	○取引所營業税 取引所數	賣買手數料收入金額	税額	○取引税 人員	賣買各約定金高	税額
有價證券	—	—	—	二三〇人	六、四〇二、九三四、一四九円	三、二〇一、四五四円
商品	—	—	—	六五三	九、二三三、〇七四、二八六	四、六一六、五〇九
計	四二	八、三二三、六五五円	一、二四七、〇六七円	八八三	一五、六三六、〇〇八、四三五	七、八一七、九六三
（參照）						
大正六年度	四三	九、四〇四、四七六	一、四二〇、六八三	八五七	一八、八一七、六九〇、九三三	八、四〇八、七九四
大正五年度	四三	八、五九四、五八五	一、二五八、九九七	八〇五	一六、〇九四、〇四五、〇七一	八、〇四六、九七九
大正四年度	四五	五、三八九、七八八	八〇八、四六四	七五五	九、一九四、六二八、六七二	四、五九七、二六九

（取引所税法ハ大正三年九月ヨリ改正法施行）

第十三章　取引所税

一　取引所税法（大正三年三月法律第二十三號）

第一條　取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營業税ヲ課ス

第二條　取引所ハ毎月ノ賣買手數料收入金額ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第三條　取引所營業税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條　會員組織ノ取引所ニハ取引所營業税ヲ課セス

第五條　取引所ニ於ケル定期取引ニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ税率ニ依リ取引税ヲ課ス

第一種　地方債證券、社債券　萬分ノ二

第二種　有價證券　萬分ノ五

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一四）

取引所税表（大正七年度）

○取引所營業税

種別	取引所數	賣買手數料收入金額	税額
有價證券	—	—	—
商品	—	—	—
計	四三	八、三一三、六五五円	一、三四七、〇六七円
（參照）			
大正六年度	四三	九、四〇四、四七六	一、四一〇、六八三
大正五年度	四三	八、五九四、三八五	一、二五八、九九七
大正四年度	四五	四、三六九、七八八	八〇八、四六四

○取引税

（取引所數仲買人員年度末現在）

種別	人員	賣買各約定金高	税額
有價證券	二三〇人	六、四〇二、九三四、一四九円	三、二〇一、四五四円
商品	六五三	九、二三三、〇七四、二八六	四、六一六、五〇九
計	八八三	一五、六三六、〇〇八、四三五	七、八一七、九六三
（參照）			
大正六年度	八三七	一八、八一七、六九〇、九三三	八、四〇八、七九四
大正五年度	八〇五	一六、〇九四、〇四五、〇七一	八、〇四六、九七九
大正四年度	七五五	九、一九四、六三八、六七二	四、五九七、三六九

（取引所税法ハ大正三年九月ヨリ改正法施行）

第十三章　取引所税

一　取引所税法（大正三年三月法律第二十三號）

第一條　取引所ニハ賣買手數料收入金額百分ノ十五ノ割合ニ依リ取引所營業税ヲ課ス

第二條　取引所ハ毎月ノ賣買手數料收入金額ヲ翌月十日迄ニ政府ニ申告スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ申告スヘシ

前項ノ申告ヲ爲サス又ハ政府ニ於テ申告ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課税標準額ヲ決定ス

第三條　取引所營業税ハ毎月分ヲ翌月末日迄ニ納付スヘシ但シ廢業ノトキハ直ニ之ヲ納付スヘシ

第四條　會員組織ノ取引所ニハ取引所營業税ヲ課セス

第五條　取引所ニ於ケル定期取引ニハ其ノ賣買各約定金高ニ對シ左ノ税率ニ依リ取引税ヲ課ス

第一種　地方債證券、社債券　萬分ノ二

第二種　有價證券　萬分ノ五

第三種　商品	萬分ノ五

賣買ヲ解約スルモ其ノ稅金ハ之ヲ免除セス

第六條　定期取引ニ於ケル轉賣及買戻ニハ取引稅ヲ課セス

第七條　國債證券ノ定期取引ニハ取引稅ヲ課セス

第八條　取引所ノ仲買人又ハ會員ハ毎月分ノ定期取引ノ賣買各約定金高ヲ種別毎ニ記載シタル申告書ヲ取引所ヲ經テ翌月十日迄ニ政府ニ提出スヘシ

取引所ハ前項ノ申告書ヲ調査シ其ノ當否ニ付意見ヲ付シ前項ノ期間内ニ之ヲ政府ニ提出スヘシ

前項ノ規定ニ依リ取引所ヲシテ申告書ノ調査ヲ爲サシムル爲仲買人又ハ會員ハ第一項ノ期日前相當ノ期間内ニ申告書ヲ取引所ニ送付スヘシ

申告書ノ提出ナキトキ又ハ政府ニ於テ申告高ヲ不相當ト認ムルトキハ政府ハ其ノ課稅標準額ヲ決定ス

第九條　取引所ノ仲買人又ハ會員ハ毎月分ノ稅金ヲ取引所ヲ經テ翌月末日迄ニ政府ニ納付スヘシ

第十條　政府ハ取引稅ノ納稅告知書ヲ取引所ニ交付シ取引所ハ之ヲ其ノ仲買人又ハ會員ニ送達スヘシ此ノ場合ニ於テハ取引所ニ交付シタル時ヲ以テ其ノ仲買人又ハ會員ニ送達アリタルモノト看做ス

取引所ハ其ノ仲買人又ハ會員ノ納付スヘキ稅金ヲ取纏メ前條ノ納期内ニ之ヲ政府ニ送付スヘシ

取引所前項ノ規定ニ依リ取纏メタル稅金ヲ送付セサルトキハ國稅徵收法ニ依リ取引所ヨリ之ヲ徵收ス

第十一條　取引所ノ仲買人又ハ會員カ廢業脱退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ課稅標準額ノ申告及取引稅ノ納付ハ前三條ノ期限ニ拘ラス直ニ之ヲ爲スヘシ

前項ノ規定ハ取引所ノ廢業シタル場合ニ於テ取引稅ニ付之ヲ準用ス

第十二條　取引所ハ其ノ仲買人又ハ會員ノ取引稅ノ納付ニ付保證ノ責ニ任ス

取引所ノ仲買人又ハ會員納期内ニ取引稅ヲ納付セサルトキハ政府ハ取引所ヨリ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十三條　取引所ハ賣買手數料及賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

取引所ノ仲買人又ハ會員ハ賣買取引ニ關スル事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

第十四條　收稅官吏ハ取引所、取引所ノ仲買人又ハ會員ニ就キ其ノ賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿書類ヲ檢査シ又ハ監督上必要ノ處分ヲ爲スコトヲ得

第十五條　取引所第二條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脱稅シタルトキハ脱稅高三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス

第十六條　取引所ノ仲買人又ハ會員第八條又ハ第十一條ノ申告ヲ怠リ又ハ詐リタルトキハ百圓

以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫稅シタルトキハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ヲ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

第十七條　取引所法第二十五條ノ規定ニ違反シタル行爲アリタルトキハ取引稅ニ關シテハ取引所ニ於テ定期取引ヲ爲シテ脫稅シタルモノト看做シ其ノ稅金五倍ニ相當スル罰金ニ處シ直ニ其ノ稅金ヲ徵收ス但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

前項ノ場合ニ於テハ委託者ニ對シ約定金高トシテ計算シタル金額ヲ以テ賣買各約定金高トス

第一項ノ稅金ニ關シテハ第八條乃至第十條及第十二條ノ規定ヲ適用セス

第十八條　取引所ノ仲買人又ハ會員ノ爲シタル第八條又ハ第十一條ノ申告不當ナル場合ニ於テ取引所之ヲ正當ナル申告トシテ政府ニ提出シタルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス因リテ脫稅スルニ至ラシメタルトキハ脫稅高五倍ニ相當スル罰金ニ處ス但シ稅金二十圓未滿ナルトキハ罰金額ヲ百圓トス

第十九條　取引所又ハ取引所ノ仲買人若ハ會員左ノ各號ノ一ニ該當スルトキハ百圓以下ノ罰金又ハ十圓以上ノ科料ニ處ス

一　取引所第八條又ハ第十一條ノ場合ニ於テ申告書ニ意見ヲ附セス又ハ申告書ノ提出ヲ怠リタルトキ

二　賣買手數料又ハ賣買取引ニ關スル帳簿ヲ調製セス、其ノ記載ヲ怠リ若ハ詐リタルトキ又ハ帳簿書類ヲ隱匿シタルトキ

三　收稅官吏ノ質問ニ對シ答辯ヲ爲サス若ハ虛僞ノ陳述ヲ爲シ又ハ其ノ職務ノ執行ヲ拒ミ、之ヲ妨ケ若ハ忌避シタルトキ

第二十條　本法ヲ犯シタル者ニハ刑法第三十八條第三項但書、第三十九條第二項、第四十條、第四十一條、第四十八條第二項、第六十三條及第六十六條ノ例ヲ用キス

第二十一條　取引所ノ仲買人又ハ會員ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ヲ犯シタルトキハ其ノ仲買人又ハ會員ヲ處罰ス

第二十二條　北海道府縣、市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ取引所營業稅ニ對シ本稅百分ノ十以內ノ附加稅ヲ課スルノ外取引所ノ業務ニ對シ租稅其ノ他ノ公課ヲ課スルコトヲ得ス

附　則

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ第二十二條ノ規定ハ大正四年四月一日ヨリ施行ス

本法施行前ノ賣買取引ニ關シテハ仍從前ノ規定ニ依リ取引所稅ヲ徵收ス

本法施行前ニ爲シタル賣買取引ニ係ル賣買手數料ニシテ本法施行後ニ收入スルモノハ取引所營業稅ノ課稅標準額ニ算入セス

明治三十九年法律第十二號ハ之ヲ廢止ス

二　取引所税法施行規則（大正三年七月大藏省令第十三號）

第一條　取引所設立ノ免許ヲ受ケタルトキハ定款及營業細則ヲ添ヘ免許ノ年月日ヨリ十日以内ニ所轄税務署ニ屆出ツヘシ定款若ハ營業細則變更ノ認可ヲ受ケタルトキ又ハ其ノ變更ヲ命セラレタルトキ亦同シ

取引所免許繼續ノ許可ヲ受ケタルトキハ其ノ旨直ニ所轄税務署ニ屆出ツヘシ

第二條　取引所開業シタルトキハ其ノ旨直ニ所轄税務署ニ申告スヘシ廢業シタルトキ亦同シ

第三條　取引所ハ取引所税法第二條ニ依ル取引所營業税課税標準額申告書ヲ所轄税務署ニ提出スヘシ

第四條　取引所ノ仲買人タル免許ヲ受ケタル者又ハ取引所ノ會員トナリタル者ハ其ノ住所、營業所、所屬取引所及免許ヲ受ケ又ハ會員ト爲リタル年月日ヲ直ニ取引所所轄税務署ニ屆出ツヘシ

取引所ノ仲買人又ハ會員カ廢業、脱退其ノ他ノ事由ニ因リ其ノ資格ヲ失ヒタルトキハ其ノ旨直ニ取引所所轄税務署ニ申告スヘシ但シ死亡シタルトキハ取引所ヨリ其ノ申告ヲ爲スヘシ

第五條　取引所税法第八條ニ依ル取引税課税標準額申告書ハ取引所所轄税務署ニ提出スヘシ

附則

本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令施行ノ際既ニ開業セル取引所及現ニ仲買人又ハ會員タル者ハ本令施行後二十日以内ニ第一條又ハ第四條ノ届出ヲ為スヘシ

三　取引所法（明治二十六年三月法律第五號）

○改正（明治三十二年三月法律第五十八號）（大正三年三月法律第三十三號）

第一章　取引所ノ設立

第一條　賣買取引ノ繁盛ナル地區内ノ商人ハ政府ノ免許ヲ受ケテ一種若ハ數種ノ物件ノ取引所ヲ設立スルコトヲ得

第二條　同種ノ物件ヲ賣買取引スル取引所ハ一地區一箇所ニ限リ設立スルコトヲ得但シ其ノ地區ハ農商務大臣之ヲ定ム

第三條　取引所ノ免許年限ハ十箇年トス但シ土地商業ノ情況ニ依リ更ニ繼續ノ出願ヲ為スコトヲ得

第四條　株式會社組織ノ取引所ハ營業保證金ヲ政府ニ納ムヘシ

第二章　取引所ノ組織

第五條　取引所ハ土地商業ノ情況及賣買取引スヘキ物件ノ種類ニ依リ會員組織又ハ株式會社組織ト為スコトヲ得

第六條　會員組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人及會員ニ限リ賣買取引ヲ為スコトヲ得

株式會社組織ノ取引所ニ於テハ其ノ取引所ノ仲買人ニ限リ賣買取引ヲ爲スコトヲ得

第七條　取引所ハ法人トシテ財產ヲ所有シ及之ヲ處分スルコトヲ得

取引所ノ責任ハ其ノ財產ニ限ルモノトス

第八條　取引所ハ政府ノ認可ヲ受ケ其ノ營業部類ニ屬スル商品ノ倉庫ヲ設置シ及預證券又ハ倉荷證券ヲ發行スルコトヲ得（大正三年法律第三三號改正）

取引所ハ其ノ預證券、質入證券又ハ倉荷證券ニ對シ前貸ヲ爲シ又ハ買受クルコトヲ得ス（同上）

第九條　取引所ノ定款ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第三章　取引所ノ會員、株主及仲買人

第十條　取引所ノ營業部類ニ屬スル商業ニ從事スル商人ハ定款ノ規定ニ從ヒ其ノ取引所ノ會員トナルコトヲ得（大正三年法律第三三號改正）

取引所ノ仲買人トナラムトスル者ハ政府ノ免許ヲ受クヘシ

第十一條　帝國臣民ニ非サレハ取引所ノ會員又ハ仲買人トナルコトヲ得ス（明治三二年法律第五八號改正）

婦女、未成年者、復權セサル家資分散者及破產者竝本法ニ依リ除名セラレ除名ノ日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ會員トナルコトヲ得ス（大正三年法律第三三號改正）

懲役若ハ重禁錮一年以上ノ刑ニ處セラレタル者又ハ刑法第二編第十六章乃至第十九章第二十三章第三十五章乃至第三十九章、舊刑法第二編第四章第一節乃至第五節第二百六十條乃至第二百六十二條第八章第九章第三節第三編第二章第一節第二節第四節乃至第六節、通貨及證券模造取締法、明治三十八年法律第六十六號、紙幣類似證券取締法、印紙犯罪處罰法、商法第二百六十一條、明治二十三年法律第三十二號商法第三編第九章、同年法律第百一號、保險業法第九十八條ノ三若ハ本法第三十一條乃至第三十二條ノ五ノ規定ニ依リ刑ニ處セラレタル者ニシテ刑ノ執行ヲ終リ又ハ其ノ執行ヲ受クルコトナキニ至リタル日ヨリ五箇年ヲ經過セサル者ハ仲買人トナルコトヲ得ス前項ニ該當スル者亦同シ（同上）

第十一條ノ二　會員第十條第一項ノ要件ヲ缺キ又ハ前條第一項若ハ第二項ニ該當スルニ至リタルトキハ其ノ取引所ヨリ脫退ス（大正三年法律第三三號追加）

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ會員トナリタル者又ハ第十條第一項ノ要件ヲ缺キ若ハ前條第一項第二項ニ該當スル者ニシテ會員トナリタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ取引所ヨリ脫退セシムルコトヲ得

仲買人前條第一項又ハ第三項ニ該當スルニ至リタルトキハ免許ハ其ノ效力ヲ失フ

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ仲買人タルノ免許ヲ受ケタル者又ハ前條第一項若ハ第三項ニ該當スル者ニシテ免許ヲ受ケタル者アルコトヲ發見シタルトキハ之ヲ除名シ又ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十一條ノ三　仲買人他ノ取引所ノ仲買人タル免許ヲ受ケタルトキハ前ノ免許ハ其ノ效力ヲ失フ（大正三年法律第三三號追加）

前項ノ規定ハ仲買人カ取引所ノ役員タル認可ヲ受ケタル場合ニ之ヲ準用ス

第十一條ノ四　仲買人ハ第三項但書ノ場合ヲ除クノ外支店、出張所其ノ他何等ノ名義ヲ以テスルヲ問ハス其ノ本店以外ノ場所ヲ以テ賣買取引ノ取扱ヲ爲ス場所ト爲スコトヲ得ス（同上）
何人ト雖定期取引ノ委託ノ代理、媒介又ハ取次ヲ營業ト爲スコトヲ得ス但シ仲買人農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ハ此ノ限ニ在ラス

第十二條　取引所ノ會員ハ自己ノ計算ヲ以テスルノ外取引所ニ於テ賣買取引ヲ爲スコトヲ得ス
仲買人ハ自己ノ計算ヲ以テスルト他人ノ計算ヲ以テスルトヲ問ハス取引所ニ對シ其ノ賣買取引上一切ノ責任ヲ負フヘシ

第十三條　取引所ノ仲買人ハ其ノ免許ヲ受クルトキ免許料ヲ納ムヘシ
免許料ノ金額ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第十四條　取引所ノ會員及仲買人ハ身元保證金ヲ其ノ取引所ニ納ムヘシ

第十五條　取引所ハ其ノ秩序ヲ保持スルカ爲定款ノ規定ニ依リ會員又ハ仲買人ノ營業ヲ停止シ五百圓以内ノ過怠金ヲ課シ且政府ノ認可ヲ受ケ會員又ハ仲買人ヲ除名スルコトヲ得

第十五條ノ二　取引所ハ其ノ定款ヲ以テ會員若ハ仲買人トナルニ必要ナル條件ヲ定メ又ハ仲買人ノ員數ヲ制限スルコトヲ得（大正三年法律第三三號追加）

第十一條ノ二ノ規定ハ會員若ハ仲買人カ前項ノ要件ヲ缺クニ至リタル場合又ハ之ヲ缺ク者ニシテ會員若ハ仲買人トナリタル者アルコトヲ發見シタル場合ニ之ヲ準用ス

第十五條ノ三　仲買人ハ廢業後ト雖其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了及監督ノ目的ノ範圍內ニ於テハ取引結了後二週間ヲ經過スル迄仍廢業セサルモノト看做ス（大正三年法律第三三號追加）
仲買人死亡シ若ハ除名セラレ又ハ其ノ免許カ取消サレ若ハ效力ヲ失ヒタル場合ニ於テハ其ノ取引所ニ於ケル取引ノ結了ニ至ル迄亦前項ニ同シ
前項ノ規定ハ會員ノ死亡、除名及脫退ノ場合ニ之ヲ準用ス
前三項ノ場合ニ於テ會員又ハ仲買人ノ行爲ヲ爲ス者ナキトキハ取引所ハ定款ノ定ムル所ニ從ヒ他人ヲシテ其ノ行爲ヲ爲サシムルコトヲ得

第四章　取引所ノ役員

第十六條　取引所ノ役員ハ定款ノ規定ニ依リ會員又ハ株主中ヨリ二箇年以內ノ任期ヲ以テ之ヲ選擧シ政府ノ認可ヲ受クヘシ
取引所ノ役員左ノ如シ

理事長　一人
理　事　二人以上
監査役　若干人

理事長及理事ハ會員ニ非サル者ヲ選擧スルモ妨ケナシ
第十一條第三項ニ該當スル者ハ取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス
取引所ノ仲買人トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他仲買人ノ營業ニ付特別ノ利害關係

ヲ有スル者ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ役員ト爲スコトヲ得ス（大正三年三月法律第三三號改正）ハ其ノ職ヲ失フ理事長又ハ理事他ノ取引所ノ理事長又ハ理事タル認可ヲ受ケタルトキ亦同シ

第十六條ノ二　役員前條第四項ニ該當スルニ至リタルトキ又ハ仲買人ノ免許ヲ受ケタルトキ（大正三年法律第三三號追加）

農商務大臣ハ不正ノ手段ニ依リ役員タルノ認可ヲ受ケタル者若ハ前條ノ規定ニ違反シテ役員トナリタル者アルコトヲ發見シ又ハ役員ニシテ第十七條第二項ノ規定ニ違反スル者アリト認メタルトキハ之ヲ解職スルコトヲ得

第十六條ノ三　農商務大臣ハ役員ノ職務ヲ行フ者ナキ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ假ニ役員ヲ選任スルコトヲ得（大正三年法律第三三號追加）

第十七條　役員又ハ取引所ノ使用人ハ何人ノ名ヲ以テスルヲ問ハス其ノ取引所ノ取引物件ニ付取引所ニ於ケル賣買取引ヲ爲シ又ハ其ノ委託ヲ爲スコトヲ得ス（大正三年法律第三三號改正）

役員又ハ取引所ノ使用人ハ其ノ取引所又ハ之ト同種ノ物件ヲ取引スル取引所ノ仲買人トノ間ニ資金ノ供與、損益ノ分配其ノ他仲買人ノ營業ニ付特別ノ利害關係ヲ有スルコトヲ得ス

第五章　取引所ノ賣買取引

第十八條　取引所ノ賣買取引ハ直取引、延取引及定期取引ノ三種トス

第十九條　取引所ノ賣買取引ノ方法ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　取引所ハ其ノ定款ニ依リ賣買取引ニ付證據金ヲ納メシムルコトヲ得

第二十一條　取引所ハ賣買取引ノ責任ヲ履行セサル者アルトキハ其ノ證據金及身元保證金ヲ以テ損害賠償ノ用ニ供スルコトヲ得

第二十二條　株式會社組織ノ取引所ハ賣買取引ノ違約ヨリ生スル損害ニ付賠償ノ責ニ任スヘシ但シ直取引又ハ延取引ノ違約ヨリ生スル損害ノ賠償ニ付テハ定款ヲ以テ別段ノ規定ヲ設クルコトヲ得（大正三年法律第三三號改正）

前項ノ場合ニ於テ取引所ハ其ノ賠償シタル金額及之ニ關スル諸費ノ追償ヲ其ノ違約者ニ要求スルコトヲ得

第二十三條　取引所ハ賣買取引高ニ應シ賣買雙方ヨリ手數料ヲ徵收スルコトヲ得其ノ率ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第二十四條　取引所ハ證據金及身元保證金ニ付他ノ債主ニ對シ優先權ヲ有ス

第二十五條　仲買人ハ委託ヲ受ケタル取引所ノ定期取引ニ付取引所ニ於テ其ノ賣付、買付又ハ受渡ヲ爲サスシテ之ヲ爲シタルト同一又ハ類似ノ計算ヲ以テ委託者ニ對シ其ノ決濟ヲ爲スコトヲ得ス（大正三年法律第三三號改正）

前項ノ規定ニ違反シタル仲買人ハ取引所之ニ三箇月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ

第二十六條　取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ公定相場ヲ決定シ之ヲ公示スヘシ（大正三年法律第三三號改正）

取引所ハ命令ノ定ムル所ニ依リ各仲買人ノ賣買高ヲ公示スヘシ

第二十六條ノ二　取引所ニ依ラスシテ定期取引ト同一若ハ類似ノ取引ヲ目的トスル市場ヲ開キ又ハ其ノ市場ニ於テ取引ヲ爲スコトヲ得ス（大正三年法律第三三號追加）

第六章　取引所ノ監督

第二十七條　農商務大臣ハ取引所ノ行爲法律命令ニ違反シ又ハ公益ヲ害シ若ハ公衆ノ安寧ニ妨害アリト認ムルトキハ左ノ處分ヲ爲スコトヲ得

一　取引所ノ解散
二　取引所ノ停止
三　取引所ノ一部ノ停止若ハ禁止
四　役員ノ解職
五　會員又ハ仲買人ノ營業停止若ハ除名

第二十八條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ官吏ヲシテ取引所ノ業務、帳簿、財産其ノ他一切ノ物件及會員又ハ仲買人ノ帳簿ヲ檢査セシムルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ取引所ノ役員會員及仲買人ハ其ノ物件ヲ提供シ質問ニ應答スヘシ

第二十九條　農商務大臣ハ必要ト認ムルトキハ取引所ノ定款ヲ改正セシメ又ハ其ノ決議及處分ヲ停止シ、禁止シ若ハ取消スコトヲ得

第三十條　取引所任意ノ解散ハ政府ノ認可ヲ受クヘシ

第七章　罰則

第三十一條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス（大正三年法律第三三號改正）

一　第十二條第一項ノ規定ニ違反シタル者
二　第十七條第一項ノ規定ニ違反シ又ハ同條第二項ノ特別ノ利害關係ヲ生スルコトヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者
三　第二十六條ノ二ノ規定ニ違反シタル者

第三十二條　第十一條ノ四ノ規定ニ違反シタル者ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス（大正三年法律第三三號改正）

第三十二條ノ二　取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者其ノ職務ニ關シ賄賂ヲ收受シ又ハ之ヲ要求若ハ約束シタルトキハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス因テ不正ノ行爲ヲ爲シ又ハ相當ノ行爲ヲ爲ササルトキハ三年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス（大正三年法律第三三號追加）

前項ノ場合ニ於テ收受シタル賄賂ハ之ヲ沒收ス若シ其ノ全部又ハ一部ヲ沒收スルコト能ハサルトキハ其ノ價額ヲ追徵ス

第三十二條ノ三　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一年以下ノ懲役又ハ三千圓以下ノ罰金ニ處ス（大正三年法律第三三號追加）

一　取引所ノ役員又ハ取引所ニ於ケル受渡物件ノ格付ヲ爲ス者ニ賄賂ヲ交付、提供又ハ約束シタル者

二　取引所ニ於ケル相場ヲ僞リテ公示シタル者

三　公示若ハ頒布ノ目的ヲ以テ虚僞ノ相場ヲ記載シタル文書ヲ作製シタル者又ハ之ヲ頒布シタル者

前項第一號ノ罪ヲ犯シタル者自首シタルトキハ其ノ刑ヲ減輕又ハ免除スルコトヲ得

第三十二條ノ四　取引所ニ於ケル相場ノ變動ヲ圖ル目的ヲ以テ虚僞ノ風說ヲ流布シ、僞計ヲ用ヒ又ハ暴行若ハ脅迫ヲ爲シタル者ハ二年以下ノ懲役又ハ五千圓以下ノ罰金ニ處ス（大正三年法律第三三號追加）

第三十二條ノ五　取引所ニ依ラスシテ取引所ノ相場ニ依リ差金ノ授受ヲ目的トスル行爲ヲ爲シタル者ハ一年以下ノ懲役又ハ二千圓以下ノ罰金ニ處ス但シ刑法第百八十六條ノ適用ヲ妨ケス（大正三年法律第三三號追加）

第三十二條ノ六　會員又ハ仲買人ハ其ノ代理人、戸主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ第十一條ノ四若ハ第十二條第一項ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ其ノ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス（大正三年法律第三三號追加）

附　則

第三十三條　取引所ノ税則ハ別ニ法律ヲ以テ之ヲ定ム

第三十四條　取引所ノ資本金、營業保證金、株式、手數料及積立金ニ關スル規程ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

第三十五條　本法ハ明治二十六年十月一日ヨリ施行ス

明治九年布告第百五號米商會所條例、明治十一年布告第八號株式取引所條例、明治二十年勅令第十一號取引所條例、明治十三年布告第二十一號、明治十五年布告第四十六號、明治十六年布告第四號及同年布告第二十九號ハ本法施行ノ日ヨリ廢止ス

第三十六條　本法發布以前ヨリ營業スル米商會所、株式取引所及取引所ハ本法ニ依リ更ニ免許ヲ受ケ其ノ營業ヲ繼續スルコトヲ得但シ本法施行ノ日ヨリ二箇月以前ニ於テ出願ノ手續ヲ爲ササルモノハ此ノ限ニ在ラス

附　則（明治三十二年三月法律第五十八號）

本法ハ明治三十二年七月十二日ヨリ施行ス

附　則（大正三年三月法律第三十三號）

本法ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

四取引所令（大正三年六月勅令第百三十七號）

○改正（大正四年一月勅令第五號）（大正五年二月勅令第十三號）（大正五年五月勅令第四十九號）（大正七年五月勅令第二百二十九號）

第一條　株式會社組織ノ取引所ノ資本金ハ十萬圓以上トス
農商務大臣必要ト認ムルトキハ資本金ノ變更又ハ株金ノ拂込ヲ命スルコトヲ得
株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ半額以上ニシテ少クトモ十萬圓ノ拂込ヲ終リタル後ニ非サレハ業務ヲ行フコトヲ得ス

第二條　會員組織ノ取引所ノ資本金ハ會員ノ醵金ヲ以テ之ニ充ツ解散ノ場合ニ於テ其ノ債務ヲ完濟シタル後殘餘財產アルトキハ定款ニ別段ノ定アル場合ヲ除クノ外解散當時ノ會員ニ之ヲ平分スヘシ

第三條（大正六年勅令第四九號改正）　株式會社組織ノ取引所ハ資本金ノ二十分ノ一ニ相當スル營業保證金ヲ供託スヘシ
株式會社組織ノ取引所ハ前項ノ供託ヲ爲シタル後ニ非サレハ其ノ業務ヲ行フコトヲ得ス營業保證金ニ不足ヲ生シタル場合ニ於テ農商務大臣ノ指定シタル期間內ニ其ノ不足額ヲ供託セサルトキ亦同シ
營業保證金ハ有價證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得其ノ種類及代用價格ハ農商務大臣之ヲ指定ス

第四條　會員組織ノ取引所ハ營利ノ目的ヲ以テ手數料ヲ徵收スルコトヲ得ス

第五條　取引所ニ於テ徵收スル賣買手數料ノ率ノ決定方法ハ之ヲ定款ニ規定スヘシ
農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項賣買手數料ノ率ヲ變更セシムルコトヲ得

第六條　身元保證金ノ額ハ定款ヲ以テ之ヲ定ムヘシ但シ會員ニ付テハ二千圓、仲買人ニ付テハ五千圓ヲ下ルコトヲ得ス
身元保證金ハ取引所ノ定ムル所ニ從ヒ有價證券ヲ以テ之ニ代用スルコトヲ得
農商務大臣必要ト認ムルトキハ前項ノ有價證券ノ種類又ハ其ノ代用價格ヲ變更セシムルコトヲ得
取引所身元保證金ヲ受取リタルトキハ遲滯ナク之ヲ供託スヘシ

第七條　取引所ハ每日一定ノ時ニ於テ市場ヲ開クヘシ
開市及休業ニ關スル事項ハ營業細則ニ之ヲ規定スヘシ

第八條　取引所ハ營業細則ノ定ムル所ニ依リ立會ノ停止又ハ會員若ハ仲買人ノ市場ニ於ケル賣買取引ノ差止ヲ爲スコトヲ得

第九條　直取引ハ其ノ契約成立ノ日ヨリ起算シ二日內、延取引ハ三日以上百五十日內約定ノ日ニ於テ受渡ヲ爲スヘシ
受渡ヲ爲スヘキ日カ休日ニ當ルトキハ其ノ翌日ニ於テ受渡ヲ爲スヘシ

第十條　定期取引ハ三月內ニ於テ取引所ノ定メタル限月ニ依ルヘシ但シ棉花、綿絲又ハ蠶絲ノ定期取引ニ限リ農商務大臣ノ認可ヲ受ケタル場合ニ於テハ六月內ノ限月ニ依ルコトヲ得

國債證券ノ定期取引ハ農商務大臣ノ認可ヲ受ケ限月ニ依ラサルコトヲ得

第十一條　直取引、延取引及會員組織ノ取引所ノ定期取引ハ競賣買ノ方法ニ依ルコトヲ得ス

轉賣買戾ハ競賣買ノ方法ニ依ル定期取引ニ限リ之ヲ爲スコトヲ得

第十一條ノ二　仲買人ハ委託ヲ受ケタル定期取引ニ付其ノ委託者ノ指圖ニ依ラスシテ轉賣又ハ買戾ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業細則ノ定ムル所ニ依リ提供スヘキ證據金又ハ受渡物件若ハ受渡代金ヲ仲買人ノ請求アルニ拘ラス委託者ニ於テ提供セサルトキハ此ノ限ニ在ラス（大正七年勅令第二二九號追加）

第十一條ノ三　前條ノ規定ニ違反シテ轉賣又ハ買戾ヲ爲シタル仲買人ハ取引所之ニ三月以上ノ營業停止ヲ命シ又ハ之ヲ除名スヘシ（同上）

第十一條ノ四　定期取引ニ付證據金ヲ納メシムル取引所ハ同一仲買人ノ賣付ト買付トカ對立スルノ故ヲ以テ證據金ノ減額又ハ免除ヲ爲スコトヲ得ス（同上）

第十二條　賣買取引ハ現物、見本又ハ銘柄ニ依リテ之ヲ爲スヘシ

米、棉花、綿絲又ハ蠶絲ノ定期取引ニ限リ營業細則ノ定ムル所ニ依リ標準物ヲ定メ格付受渡ノ方法ヲ用ウルコトヲ得

前項ノ標準物ハ之ニ依リテ爲シタル定期取引ノ受渡期日ヲ經過シタル後六月間取引所之ヲ保管スヘシ

第十三條　株式會社組織ノ取引所ノ定期取引ニ於ケル賣買取引ノ單位ハ營業細則ノ定ムル所ニ依ル但シ米ニ付テハ百石、株式ニ付テハ十株、國債地方債又ハ社債ニ付テハ額面千圓ヲ下ルコトヲ得ス（大正七年六月勅令第二百二十六號）

直取引、延取引又ハ會員組織ノ取引所ノ定期取引ニ於ケル賣買取引ニ付單位ヲ定メムトスルトキハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

第十四條　受渡ハ營業細則ノ定ムル所ニ依リ取引所ヲ經テ之ヲ爲スヘシ

受渡場所ハ營業細則ノ定ムル所ニ依ル

第十五條　取引所ハ營業細則ヲ設ケ賣買取引ノ方法ニ關スル細則ヲ規定スヘシ

營業細則ハ農商務大臣ノ認可ヲ受クヘシ

農商務大臣必要ト認ムルトキハ營業細則ヲ變更セシムルコトヲ得

第十六條　仲買人ノ免許料ハ百圓トス

附　則

第十七條　本令ハ大正三年九月一日ヨリ之ヲ施行ス

第十八條　明治二十六年勅令第七十四號ハ之ヲ廢止ス

第十九條　本令施行ノ際現ニ政府ニ納メタル營業保證金ハ本令施行後十日內ニ其ノ返還ヲ受ケ其ノ返還ヲ受ケタル日又ハ其ノ翌日ニ於テ第三條ノ規定ニ依リ供託ヲ爲スヘシ

第二十條　取引所ノ定ムル身元保證金ノ額カ第六條第一項ノ金額ニ達セサルトキハ本令施行後六月内ニ之ヲ改定スヘシ

前項ノ改定ヲ爲ス迄ノ間ニ於テ會員又ハ仲買人ト爲リタル者ニ對シテハ取引所ハ第六條第一項ノ金額ヲ下ラサル身元保證金ヲ納メシムヘシ

第一項ノ改定ニ依リ增納セシムヘキ身元保證金ハ本令施行後三年内其ノ增納ヲ猶豫スルコトヲ得但シ本令施行後一年内ニ其ノ金額ノ三分ノ一以上、二年内ニ三分ノ二以上ヲ納メシムヘシ

第二十一條　取引所ハ本令施行後六月内ニ本令ニ依リ營業細則ヲ定メ農商務大臣ノ認可ヲ申請スヘシ

前項ノ認可ヲ受クル迄從前ノ營業細則ハ本令ニ依リ認可ヲ受ケタルモノト看做シ受渡ニ付テハ仍從前ノ例ニ依ル

第二十二條　米ノ定期取引ノ單位ハ大正十年十二月末日迄ノ間ニ於テ爲ス賣買取引ニ限リ第十三條第一項但書ノ規定ニ拘ラス之ヲ五十石ト爲スコトヲ得（大正四年勅令第五號追加大正五年勅令第一三號大正六年勅令第四九號改正）

附　則（大正七年六月勅令第二百二十九號）

本令ハ米ノ定期取引ニ付テハ大正七年七月一日ヨリ其ノ他ノ物件ノ定期取引ニ付テハ同年八月一日ヨリ之ヲ施行ス

本令ハ本令施行前ニ開始シタル限月ノ定期取引ニハ之ヲ適用セス

（參　照）

○取引所法施行規則（大正三年六月農商務省令第十六號）

露光量違いの為重複撮影

賣藥稅

○賣藥稅法
○賣藥稅法施行規則
○賣藥法
○賣藥法施行規則
○輸出又ハ移出スル賣藥ノ取締ニ關スル件

露光量違いの為重複撮影

賣藥稅

○賣藥稅法

○賣藥稅法施行規則

○賣藥法

○賣藥法施行規則

○輸出又ハ移出スル賣藥ノ取締ニ關スル件

露光量違いの為重複撮影

賣藥稅表

○賣藥營業稅（一月一日現在）

年次	營業人員	藥劑方數	稅額
大正八年	三一、六七一人	九〇、四六六方	二五四、三一一円
大正七年	三三、一八二	九〇、六九〇	二三八、三四四
大正六年	三三、六八七	八八、一五六	二二七、七六二
大正五年	三三、二四九	八八、〇二六	二三八、六〇七
大正四年	三四、五六二	八九、七六三	二四七、一二七

○賣藥印紙稅

年度	稅額（印紙）
大正七年度	四、四八九、八一七円
大正六年度	三、三六一、三四六
大正五年度	二、七三七、八六二
大正四年度	二、三六七、〇五三
大正三年度	二、三五三、五七三

第十四章　賣藥稅

一　賣藥稅法（明治三十八年五月法律第七十一號）

◎改正（明治四十三年三月法律第八號）（明治四十四年三月法律第四十二號）

第一條　本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥規則ニ依ル賣藥營業者ヲ謂フ（明治四三年法律第八號改正）

第一條ノ二　賣藥營業者ニハ藥劑一方每ニ一年間製造高ノ定價總額ニ應シ每年左ノ賣藥營業稅ヲ課ス（同上追加）

定價總額三百圓未滿ノモノ	金三圓
定價總額五百圓未滿ノモノ	金五圓
定價總額千圓未滿ノモノ	金七圓
定價總額二千圓未滿ノモノ	金九圓
定價總額三千圓未滿ノモノ	金十二圓
定價總額五千圓未滿ノモノ	金十七圓
定價總額一萬圓未滿ノモノ	金二十二圓
定價總額二萬圓未滿ノモノ	金三十二圓

露光量違いの為重複撮影

賣藥稅表

○賣藥營業稅（一月一日現在）

年次	營業人員	藥劑方數	稅額
大正八年	三一、六七一人	九〇、四六六方	三四、三二一圓
大正七年	三三、一八〇	九〇、六九〇	三三八、二四四
大正六年	三三、六八七	八八、一三六	三三七、三六七
大正五年	三三、三四九	八八、〇三六	三三八、六〇七
大正四年	三四、三六三	八九、七六三	三四七、一二七

○賣藥印紙稅

年度	稅額（印紙）
大正七年度	四、四八九、八一七圓
大正六年度	三、三六一、三四六
大正五年度	二、七三七、八六三
大正四年度	二、三六七、〇五三
大正三年度	二、三五三、五七三

第十四章　賣藥稅

一 賣藥稅法（明治三十八年五月法律第七十一號）

○改正（明治四十三年三月法律第八號）（明治四十四年三月法律第四十二號）

第一條　本法ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥規則ニ依ル賣藥營業者ヲ謂フ（明治四三年法律第八號改正）

第一條ノ二　賣藥營業者ニハ藥劑一方每ニ一年間製造高ノ定價總額ニ應シ每年左ノ賣藥營業稅ヲ課ス（同上追加）

定價總額三百圓未滿ノモノ	金三圓
定價總額五百圓未滿ノモノ	金五圓
定價總額千圓未滿ノモノ	金七圓
定價總額二千圓未滿ノモノ	金九圓
定價總額三千圓未滿ノモノ	金十二圓
定價總額五千圓未滿ノモノ	金十七圓
定價總額一萬圓未滿ノモノ	金二十二圓
定價總額二萬圓未滿ノモノ	金三十二圓

定價總額三萬圓未滿ノモノ	金四十二圓
定價總額五萬圓未滿ノモノ	金五十七圓
定價總額七萬圓未滿ノモノ	金七十二圓
定價總額十萬圓未滿ノモノ	金八十七圓
定價總額十萬圓以上ノモノ	金百二圓

前項ノ定價總額ハ前年中ノ總額ニ依ル但シ前年又ハ其ノ年免許ヲ受ケタル者ニ付テハ其ノ年製造高ノ豫算定價額ニ依ル

外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ外國ニ輸出セサル賣藥ニ準シ定メタル價格ヲ以テ定價ト看做ス

第一條ノ三　賣藥營業者二箇所以上ニ於テ營業スルトキハ營業場每ニ前條ノ賣藥營業稅ヲ納ムヘシ（同上）

第一條ノ四　賣藥營業者ハ每年一月十五日迄ニ課稅標準額ヲ所轄收稅官廳ニ申告スヘシ但シ其ノ年免許ヲ受ケタル者ハ免許ヲ受ケタル日ヨリ二十日以內ニ申告スヘシ（同上）

第一條ノ五　賣藥營業稅ハ年額ヲ二分シ一月及七月之ヲ徵收ス但シ納期限ヲ經過シテ免許ヲ受ケタル場合ニ於テハ當該納期ニ納ムヘキ稅金ハ即納トス（同上）

賣藥營業者六月以前ニ廢業シ又ハ賣藥ノ發賣ヲ禁止セラレタルトキハ七月ニ納ムヘキ稅金ハ之ヲ免除ス

第一條ノ六　北海道及府縣ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ三以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得

市町村及北海道沖繩縣ノ區ハ賣藥營業稅ニ對シ本稅百分ノ五以內ノ附加稅ヲ課スルコトヲ得（明治四四年法律第四二號追加）

第二條　賣藥ニハ定價一割ノ賣藥印紙稅ヲ課ス（明治四三年法律第八號改正）

定價一錢未滿ナルトキ又ハ一錢未滿ノ端數アルトキハ一錢未滿ノ金額ハ總テ之ヲ一錢トシテ賣藥印紙稅ヲ計算ス

賣藥印紙稅ハ印紙ヲ貼用シテ納ムルモノトス

第三條　賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ定價ヲ附記シ其ノ賣藥印紙稅ニ相當スル印紙ヲ貼用シ印紙面ヨリ他所ニカケ消印スヘシ（同上）

第四條　賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ貼用印紙ヲ破毀スルニ非サレハ賣藥ヲ取出スコトヲ得サルノ裝置ヲ爲スヘシ

第五條　賣藥營業者定價ヲ增加シテ賣藥ヲ販賣セムトスルトキハ其ノ定價ヲ改記シ其ノ賣藥印紙稅ニ相當スル印紙ヲ增貼スヘシ（明治四三年法律第八號改正）

第六條　賣藥營業者、請賣者及行商者ハ帳簿ヲ調製シ賣藥ノ製造出入ニ關スル事實ヲ詳細明瞭ニ記載スヘシ

第七條　賣藥營業者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲サザル賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

賣藥請賣者又ハ行商者ハ相當印紙ノ貼用ナキ賣藥、第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持スルコトヲ得ス

第八條 收稅官吏ハ前條ニ違反シタル賣藥ヲ發見スルトキハ處罰セラレタルト否トヲ問ハス賣藥營業者ノ費用ヲ以テ印紙ヲ貼用シ、貼用印紙ニ消印シ又ハ相當ノ裝置ヲ爲スコトヲ得

前項ノ費用徵收ニハ國稅徵收法ノ規定ヲ準用ス

第九條 收稅官吏ハ賣藥ノ所在ニ就キ檢查ヲ爲シ又ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ帳簿書類ヲ檢閲スルコトヲ得

第十條 外國ニ輸出スル賣藥ニ付テハ命令ノ定ムル所ニ依リ賣藥印紙稅ヲ免除ス（明治四三年法律第八號改正）

前項ノ賣藥ニ付テハ第二條乃至第五條、第七條、第八條及第十一條乃至第十三條ヲ適用セス

第十一條 賣藥營業者ニシテ所持ノ賣藥中性效ヲ失シタルモノヲ廢棄セムトスルトキハ命令ノ定ムル所ニ依リ既貼印紙ト新印紙トノ交換ヲ請求スルコトヲ得

第十二條 賣藥營業者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ販賣シ又ハ附記定價以上ニ賣藥ヲ販賣シタルトキハ脫稅高二十倍ノ罰金又ハ科料ニ處ス但シ脫稅高二十倍ノ金額五圓ニ達セサルトキハ五圓ノ科料ニ處ス（明治四三年法律第八號改正）

賣藥營業者定價ヲ附記セサル賣藥ヲ販賣シタルトキハ二圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス因リテ脫稅ヲ爲シタル者ハ前項ニ依リテ處斷ス（同上）

第十三條 賣藥營業者第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（同上）

賣藥請賣者又ハ行商者相當印紙ノ貼用ナキ賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ第三條ニ依リ貼用印紙ニ消印ヲ爲ササル賣藥又ハ第四條ノ裝置ヲ爲ササル賣藥ヲ所持又ハ販賣シタルトキハ三圓以上五十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第十三條ノ二 第一條ノ四ノ申告ヲ爲サス又ハ虛僞ノ申告ヲ爲シタル者ハ一圓以上ノ科料ニ處ス因リテ賣藥營業稅ヲ逋脫シタル者ハ脫稅金額三倍ニ相當スル罰金又ハ科料ニ處ス（明治四三年法律第八號追加）

第十四條 賣藥營業者、請賣者又ハ行商者賣藥ノ製造出入ニ關スル帳簿書類ヲ隱匿シタルトキハ五圓以上百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處シ帳簿ヲ調製セス又ハ其ノ記載ヲ怠リ若ハ不正ノ記載ヲ爲シタルトキハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス（明治四三年法律第八號改正）

第十五條 收稅官吏ノ尋問ニ對シ虛僞ノ答辯ヲ爲シ又ハ收稅官吏ノ職務執行ヲ拒ミ、之ヲ忌避シ若ハ之ニ支障ヲ加ヘタル者ハ三圓以上三十圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス其ノ刑法ニ正條アルモノハ刑法ニ依ル（同上）

第十六條 本法ノ規定ニ違反シタル者ニハ刑法ノ減輕、再犯加重及數罪俱發ノ例ヲ用キス

第十七條 賣藥營業者、請賣者及行商者カ未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法ノ規定ニ依リ賣藥營業者、請賣者及行商者ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

第十八條　賣藥營業者、請賣者及行商者ハ其ノ代理人、戶主、家族、同居者、雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ業務ニ關シ本法ノ規定ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免ルルコトヲ得ス

第十九條　賣藥類似品及其ノ營業者、請賣者及行商者ニ關シテハ本法ノ規定ヲ準用ス

賣藥類似品ノ種類ハ命令ヲ以テ之ヲ定ム

第二十條　本法ニ依リ賣藥營業稅ヲ課セラレタル者ニハ營業稅ヲ課セス（明治四三年法律第八號追加）

附　則

賣藥印紙稅規則ハ之ヲ廢止ス

本法施行ノ際販賣ノ爲賣藥類似品ヲ所持スル者ハ本法施行ノ日ヨリ三十日以内ニ本法第三條及第四條ニ依リ印紙ヲ貼用スヘシ

附　則（明治四十三年三月法律第八號）

本法ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

賣藥規則中及非常特別稅法中賣藥營業稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十四年三月法律第四十二號）

本法ハ明治四十四年度分ヨリ之ヲ適用ス

二　賣藥稅法施行規則（明治三十八年五月勅令第百五十五號）

◎改正（明治四十三年十二月勅令第四百四十五號）

第一條　賣藥營業者ハ賣藥ノ容器又ハ包紙等ニ其ノ住所、氏名又ハ名稱ヲ記載スヘシ

第二條　賣藥營業者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　製造又ハ輸入シタル賣藥ノ品名、數量、定價及其ノ製造又ハ輸入ノ日

二　他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額、引渡ノ日及其ノ引渡先

三　買入レタル印紙ノ數量、金額及其ノ買入先

四　貼用シタル印紙ノ數量、金額

小賣ノ場合ニ於テハ前項第二號引渡先ノ記載ヲ要セス

第三條　賣藥請賣者及行商者ハ少クトモ左ノ事項ヲ帳簿ニ記載スヘシ

一　引取リタル賣藥ノ品名、數量、價額、引取ノ日及引取先

二　他ニ引渡シタル賣藥ノ品名、數量、價額及引渡ノ日

第四條　收稅官吏賣藥稅法第八條第一項ニ依ル處分ヲ爲シタルトキハ調書ヲ作リ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者ト共ニ署名捺印スヘシ

前項ノ場合ニ於テ違反ニ係ル賣藥ヲ所持スル者署名捺印ヲ爲スコト能ハサルトキ又ハ之ヲ拒

ミタルトキハ收稅官吏ハ其ノ旨ヲ調書ニ記載スヘシ

第五條　賣藥ヲ外國ニ輸出シ賣藥印紙稅ノ免除ヲ受ケムトスル者ハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ他ノ賣藥ト區別シテ之ヲ藏置スヘシ（明治四三年勅令第四四五號改正）

前項ノ賣藥ヲ運搬セムトスルトキハ運搬線路及運搬先又ハ輸出港ヲ定メ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ

前二項ノ場合ニ於テ收稅官吏必要ト認ムルトキハ其ノ賣藥ニ封印ヲ施シ又ハ之ヲ護送スルコトアルヘシ

第六條　前條第一項ノ承認ヲ受ケタル後六箇月ヲ過キ賣藥ヲ輸出セサルトキハ承認ハ其ノ效力ヲ失フ

前條第一項ノ承認カ效力ヲ失ヒタルトキ又ハ輸出ノ目的ヲ廢止シタルトキハ賣藥營業者又ハ輸出者ニ於テ其ノ賣藥ニ印紙ヲ貼用シ收稅官吏ノ承認ヲ受クヘシ但シ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ賣藥ヲ廢棄スルトキハ印紙ノ貼用ヲ要セス（明治四三年勅令第四四五號改正）

前項輸出者ニ關シテハ賣藥營業者ノ例ニ依ル

第六條ノ二　第五條ノ藏置又ハ運搬中賣藥ノ裝置ノ變更ヲ要スルニ至リタルトキハ收稅官吏ノ承認ヲ受ケ製造場ヘ戻入スルコトヲ得此ノ場合ニ於テハ第五條第三項ノ規定ヲ準用ス（明治四三年勅令第四四五號追加）

前項ノ賣藥ヲ輸出セムトスルトキハ更ニ第五條ノ承認ヲ受クヘシ

第七條　賣藥稅法第十一條ニ依リ印紙ノ交換ヲ請求セムトスル者ハ賣藥ノ品名、數量、定價及交付ヲ受クヘキ印紙各種枚數ヲ記載シタル書面ニ其ノ賣藥ヲ添ヘ所轄稅務署ニ提出スヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ所轄稅務署ハ印紙ノ交換ヲ爲サス

一　既貼印紙ノ金額一口十圓未滿ナルトキ

二　賣藥ノ裝置又ハ印紙ノ貼用不完全ナルトキ

三　既貼印紙汚染又ハ毀傷ニ係ルトキ

第九條　印紙ノ交換ハ左ノ割合ニ依ル

一　既貼印紙　二十圓未滿一圓ニ付　新印紙　八十錢

二　既貼印紙　二十圓以上一圓ニ付　新印紙　八十五錢

第十條　所轄稅務署ニ於テ印紙ノ交換ヲ爲スヘキモノト認メタルトキハ既貼ノ印紙ニ消印シ又ハ之ヲ切斷シタル後其ノ賣藥ヲ下戻シ同時ニ新印紙ヲ交付スヘシ

第十一條　藥品ヲ用キ又ハ之ヲ配伍シテ製造シタル物品ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル效驗アリトシテ發賣スルモノハ賣藥稅法第十九條ニ依ル賣藥類似品トス但シ醫藥又ハ單ニ滋養若ハ消毒ノ效驗アリトスルモノ及大藏大臣ノ特ニ認許シタルモノハ此ノ限ニ在ラス

一　疾病ヲ豫防スルコト

二　治病ニ效驗アリト謂フニ非サルモ心身ヲ爽快ニシ音聲ヲ改善シ又ハ精氣ヲ增進スルコト

三　皮膚毛髮ノ色澤組織ヲ變更シ又ハ身體ノ惡臭ヲ去ルコト

四　挤辯其ノ他皮膚ノ障害ヲ除去スルコト

第十二條　前條但書ニ依リ大藏大臣ノ認許ヲ得ムトスル者ハ其ノ物品ノ製造方法及效能ヲ記載シ見本ヲ添ヘ所轄税務署ヲ經由シテ大藏大臣ニ申請スヘシ

第十三條　收稅官吏ハ賣藥營業者、請賣者及行商者ノ營業ニ關シ職務上知得シタル事項ヲ他ニ漏洩スルコトヲ得ス

第十四條　本令中賣藥營業者、請賣者及行商者ニ關スル規定ハ之ヲ賣藥類似品營業者ニ準用ス

附　則

本令ハ賣藥稅法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治四十三年十二月勅令第四百四十五號）

本令ハ明治四十四年一月一日ヨリ之ヲ施行ス

三賣藥法（大正三年三月法律第十四號）○改正（大正五年六月法律第四十一號）

第一條　本令ニ於テ賣藥營業者ト稱スルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者ヲ謂フ

原料品ニ加工セスシテ賣藥ト爲スモノハ本法ノ適用ニ付テハ之ヲ賣藥ノ調製ト看做ス

第二條　賣藥營業者賣藥ヲ發賣セムトスルトキハ方名、原料品名及其ノ分量、調製ノ方法、用法、用量竝効能ヲ記載シ主タル營業所所在地ノ地方長官ノ免許ヲ受クヘシ之ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ日本藥局方ニ記載セサル原料品ヲ使用セムトスル者ハ其ノ見本品ヲ提出スヘシ

第三條　賣藥營業者二箇所以上ノ營業所ヲ設ケタルトキハ營業所毎ニ所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第四條　賣藥ニハ毒藥、劇藥及其ノ性狀又ハ配伍ノ結果ニ由リ危害ヲ生スルノ虞アル藥品ヲ使用スルコトヲ得ス但シ毒藥、劇藥ハ其ノ用法、用量ニ依リ行政官廳ニ於テ危害ヲ生スルノ虞ナシト認メタルモノハ此ノ限ニ在ラス

第五條　賣藥ノ原料品ハ日本藥局方ニ記載スルモノハ其ノ所定ノ性狀品質、之ニ記載セサルモ

ノハ第二條第二項ノ見本品ト同様ノ性狀品質ヲ具備スルヲ要ス

第六條　藥劑師、藥劑師ヲ使用スル者又ハ醫師ニ非サレハ賣藥ヲ調製シテ販賣スルコトヲ得ス但シ獸醫ニシテ家畜用ノ賣藥ヲ調製販賣スルハ此ノ限ニ在ラス（大正五年法律第四一號改正）

第七條　賣藥免許ハ前條ニ掲クル者ニ限リ之ヲ讓受ケ又ハ相續スルコトヲ得

第八條　賣藥ノ効能ニ關シテハ文書、言語其ノ他何等ノ方法ヲ以テスルヲ問ハス免許ヲ得タル事項ヲ說明スルノ外之ヲ誇張シテ公示スルコトヲ得ス

第九條　賣藥ニ關スル廣告、賣藥ノ容器若ハ被包又ハ賣藥ニ添附シ若ハ添附セスシテ頒布スル文書ニハ左記ノ事項ヲ記載スルコトヲ得ス

一　猥褻ニ涉ル記事又ハ圖畫

二　避妊又ハ墮胎ヲ暗示スル記事

三　虛僞誇大ノ證明若ハ醫師其ノ他ノ者カ効能ヲ保證シタルモノト世人ヲシテ誤解セシムル虞アル記事

四　醫治ノ無効ヲ暗示シ或ハ暗ニ醫師ヲ誹謗スルカ如キ記事

第十條　地方長官ハ衞生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ賣藥營業者ニ對シ其ノ免許ヲ得タル事項ノ變更ヲ命スルコトヲ得

第十一條　賣藥營業者ニシテ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シ又ハ本法若ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル處分ニ違反シタル者ニ付地方長官ハ其ノ免許ヲ取消スコトヲ得

第十二條　行政官廳ハ當該官吏ヲシテ賣藥ヲ調製シ若ハ販賣スル場所ニ臨檢セシメ又ハ賣藥ノ檢査ヲ爲サシムルコトヲ得

第十三條　行政官廳ハ試驗ノ用ニ供スル爲必要ナル分量ニ限リ當該官吏ヲシテ賣藥又ハ其ノ原料品ヲ無償ニテ收去セシムルコトヲ得

第十四條　第二條第一項若ハ第五條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反スル賣藥ハ地方長官其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ又ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲スコトヲ得但シ所有者又ハ所持者ニ於テ衞生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第十五條　第二條第一項、第五條若ハ第六條ノ規定又ハ第十條ノ處分ニ違反シタル者ハ五百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十六條　第八條若ハ第九條ノ規定ニ違反シタル者又ハ當該官吏ノ臨檢若ハ檢査ヲ拒ミタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第十七條　第三條又ハ第二十條第二項ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

第十八條　賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者未成年者又ハ禁治產者ナルトキハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依リ之ニ適用スヘキ罰則ハ之ヲ法定代理人ニ適用ス但シ其ノ營業ニ關シ成年者ト同一ノ能力ヲ有スル未成年者ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者又ハ賣藥請賣營業者ハ其ノ代理人戶主家族同居者雇人其ノ他ノ從業者ニシテ其ノ

業務ニ關シ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ違反シタルトキハ自己ノ指揮ニ出テサルノ故ヲ以テ處罰ヲ免カルルコトヲ得ス

第十九條　明治三十三年法律第五十二號ハ本法又ハ本法ニ基キテ發スル命令ニ依ル犯罪ニ之ヲ準用ス

第二十條　輸出又ハ移出スル賣藥ニ付テハ第二條乃至第十一條、第十四條及第十五條ノ規定ヲ適用セス其ノ取締上必要ナル規定ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム

前項ノ賣藥ヲ調製セムトスル者ハ營業所每ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

附　則

第二十一條　本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年八月勅令第百六十號ヲ以テ大正三年十月一日ヨリ施行ス）

第二十二條　賣藥規則ハ之ヲ廢止ス

他ノ法令中賣藥規則トアルハ本法ヲ指シタルモノト看做ス

第二十三條　從前ノ規定ニ依リ受ケタル賣藥免許ハ之ヲ本法ニ依リ受ケタル賣藥免許ト看做ス

第二十四條　本法公布ノ際現ニ賣藥營業者タル者ハ第六條又ハ第七條ノ規定ニ拘ラス賣藥ヲ調製シテ販賣シ又ハ賣藥免許ヲ讓受ケ若ハ相續スルコトヲ得但シ賣藥ヲ輸入若ハ移入シテ販賣スル者又ハ法人ハ此ノ限ニ在ラス

第二十五條　本法公布前免許ヲ受ケタル賣藥ニシテ毒藥、劇藥又ハ藥品營業竝藥品取扱規則ノ指定藥品ヲ含有セサルモノニ付テハ第六條及第七條ノ規定ヲ適用セス

第二十六條　第三條及第二十條ノ屆出ハ賣藥稅法ノ適用ニ付テハ之ヲ免許ト看做ス

四 賣藥法施行規則（大正三年八月内務省令第十六號）

第一條 賣藥發賣免許ノ申請書ニハ賣藥法第二條第一項ニ揭ケタル事項ノ外氏名、生年月日又ハ法人ノ名稱、住所及營業所（調製又ハ販賣ノ場所ヲ云フ）ヲ記載シ賣藥法第六條又ハ第二十四條規定ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第二條 地方長官賣藥法第二條ノ規定ニ依リ賣藥發賣免許ヲ與フルトキハ別記雛形ノ賣藥免許證ヲ下付ス

第三條 免許事項變更ノ申請書ニハ變更セムトスル事項、方名、氏名又ハ法人ノ名稱及住所ヲ記スヘシ但シ方名ヲ變更セムトスル場合ニ於テハ免許證ヲ添附スヘシ

方名變更ノ免許ヲ與フルトキハ免許證ヲ書換下付ス

第四條 前條第二項規定ノ場合ヲ除クノ外賣藥免許證ノ記載事項ニ變更ヲ生シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ免許證ヲ添ヘ三十日內ニ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ其ノ書換ヲ申請スヘシ

但シ賣藥法第二十五條規定ノ賣藥ヲ除クノ外賣藥免許ヲ讓受ケ又ハ相續シタル場合ニ於テハ賣藥法第六條又ハ第二十四條規定ノ資格ヲ證スル書面ヲ添附スヘシ

第五條 賣藥ニ關シ左ノ手數料ヲ徵收ス

一 發賣免許手數料　一方ニ付金壹圓

二 變更免許手數料　一方ニ付金七拾錢

三 免許證再下付又ハ書換手數料　一方ニ付金五拾錢

第三條第二項規定ノ書換ニ付テハ前項第二號規定ノ手數料ヲ徵收シ前項第三號規定ノ書換手數料ハ之ヲ徵收セス

第六條 地方長官ハ賣藥法第二條第二項ノ規定ニ依リ賣藥營業者ノ提出シタル見本品ノ性狀品質ヲ記シ保存スヘシ

第七條 賣藥法第三條規定ノ屆出ハ其ノ事由ノ發生シタル日ヨリ十日內ニ之ヲ爲スヘシ

賣藥發賣免許申請書ニ記載セル營業所ニシテ主タル營業所所在地ノ道府縣ト同一區域內ニ在ルモノニ付テハ其ノ申請書ニ於ケル營業所ノ記載ヲ以テ賣藥法第三條規定ノ屆出ト看做ス

賣藥營業者其ノ營業所ヲ變更シ又ハ廢止シタルトキハ十日內ニ營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第八條 賣藥營業者二箇所以上ノ調製所ヲ設ケタルトキハ藥劑師若ハ醫師タル營業者又ハ賣藥法第二十四條規定ノ營業者カ自ラ管理スル一箇所ヲ除クノ外調製所每ニ藥劑師ヲ置キ管理ヲ爲サシムヘシ但シ調製所所在地地方長官ノ許可ヲ受ケタルトキ又ハ賣藥法第二十五條規定ノ賣藥ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

賣藥營業者前項規定ノ藥劑師ヲ置キタルトキハ其ノ氏名ヲ營業所所在地ノ地方長官ニ屆出ツヘシ

第九條　賣藥營業者ハ賣藥法第六條又ハ本令第八條第一項ノ規定ニ依リ使用スル藥劑師ニ異動ヲ生シタルトキハ二十日內ニ營業所所在地ノ地方長官ニ届出ツヘシ

第十條　賣藥法第六條又ハ本令第八條第一項ノ規定ニ依リ使用スル藥劑師ハ之ヲ使用スル賣藥營業者ノ營業所以外ニ於テ藥劑師ノ資格ニ伴フ業務ニ從事セサル者タルコトヲ要ス但シ地方長官ノ許可ヲ得タルトキハ此ノ限ニ在ラス

第十一條　賣藥免許證ヲ毀損シ又ハ亡失シタルトキハ其ノ事由ヲ記シ三十日內ニ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ再下付ヲ申請スヘシ但シ毀損ノ場合ニハ毀損シタル免許證ヲ添附スヘシ

亡失シタル免許證ヲ發見シタルトキハ直ニ之ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ提出スヘシ

第十二條　賣藥營業者廢業シタルトキハ三十日內ニ免許證ヲ主タル營業所所在地ノ地方長官ニ返納スヘシ

賣藥營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ其ノ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ戸籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ届出義務者ヨリ前項ノ規定ニ準シ其ノ手續ヲ爲スヘシ

第十三條　賣藥ヲ請賣セムトスル者ハ營業所毎ニ地方行政廳ニ届出ツヘシ

第十四條　賣藥請賣營業者廢業シ又ハ氏名若ハ法人ノ名稱又ハ住所ヲ變更シタルトキハ地方行政廳ニ届出ツヘシ

第十五條　賣藥營業者竝賣藥請賣營業者自ラ行商シ又ハ賣子ヲシテ行商セシメムトスルトキハ地方行政廳ニ届出ツヘシ其ノ之ヲ廢止シタルトキ亦同シ

第十六條　賣藥營業者免許ヲ取消サレタルトキハ請賣營業者亦其ノ賣藥ヲ販賣スルコトヲ得ス

第十七條　賣藥ノ發賣ヲ免許シタルトキ又ハ賣藥法第三條ノ規定ニ依ル届出アリタルトキハ免許若ハ届出事由發生ノ年月日、方名、氏名、生年月又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ、賣藥請賣若ハ賣藥行商ノ届出アリタルトキハ届出事由發生ノ年月日、氏名又ハ法人ノ名稱、住所及營業所ヲ當該地方行政廳ヨリ所轄稅務署ニ通知スヘシ其ノ異動アリタルトキ亦同シ

第十八條　行政官廳賣藥法第十二條ノ規定ニ依リ當該官吏ヲシテ臨檢又ハ檢査ヲ爲サシムルトキハ制服ヲ著スル者ノ外別記雛形ノ證票ヲ携帶セシムヘシ

第十九條　賣藥法第十三條ノ規定ニ依リ物品ヲ收去スルトキハ當該官吏ハ營業者ニ證書ヲ交付スヘシ若シ營業者ノ求アルトキハ事實ノ許ササル場合ヲ除クノ外其ノ物品ノ一部ニ封緘ヲ施シ之ヲ交付スヘシ

第二十條　賣藥法第十二條ノ規定ニ依ル臨檢又ハ檢査ハ日出前日沒後ニ於テ之ヲ爲スコトヲ得ス但シ營業時間中ハ此ノ限ニ在ラス

第二十一條　第八條第一項第十條第十六條ノ規定ニ違反シタル者ハ百圓以下ノ罰金又ハ科料ニ處ス

第二十二條　第四條第七條第三項第八條第二項第九條第十一條乃至第十五條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十三條　本令ハ賣藥法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

（別記樣式省略）

五　輸出又ハ移出スル賣藥ノ取締ニ關スル件（大正三年九月勅令第二百號）

第一條　賣藥法第二十條第二項ノ規定ニ依ル屆書ニハ同法第二條第一項ニ掲ケタル事項、氏名ハ生年月又ハ法人ノ名稱、住所、營業所及輸出先又ハ移出先ヲ記載スヘシ

前項ニ掲ケタル事項ヲ變更シタルトキハ十日內ニ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

第二條　輸出又ハ移出スル賣藥ノ營業ヲ相續ニ依リ承繼シタル者又ハ廢業シタル者ハ三十日內ニ營業所毎ニ之ヲ地方長官ニ屆出ツヘシ

營業讓渡ノ場合ニ於テハ讓渡人及讓受人連署ヲ以テ前項ノ規定ニ準シ之ヲ屆出ツヘシ

營業者死亡シ又ハ失踪ノ宣告ヲ受ケタル場合ニ於テ營業ヲ承繼スル者ナキトキハ戶籍法ニ依ル死亡又ハ失踪ノ屆出義務者ヨリ第一項ノ規定ニ準シ之ヲ屆出ツヘシ

第三條　地方長官ハ輸出又ハ移出スル賣藥ニシテ衞生上危害ヲ生スルノ虞アリト認ムルトキハ其ノ所有者ヲシテ之ヲ廢棄セシメ若ハ直接ニ廢棄シ其ノ他必要ナル處分ヲ爲シ又ハ營業ヲ禁止シ若ハ停止スルコトヲ得但シ所有者又ハ所持者ニ於テ衞生上危害ヲ生スル虞ナキ方法ニ依リ處置セムコトヲ請フトキハ之ヲ許可スルコトヲ得

第四條　第一條若ハ第二條ノ規定ニ依ル屆出アリタルトキ又ハ第三條ノ規定ニ依リ營業禁止若ハ停止ノ處分ヲ爲シタルトキハ屆出事由發生又ハ處分ノ年月日、方名、氏名、生年月又ハ法

露光量違いの為重複撮影

人ノ名稱、住所及營業所ヲ示シテ之ヲ當該地方長官ヨリ所轄税務署ニ通知スヘシ

第五條　第三條ノ規定ニ依ル營業禁止又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第二項又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

六　臺灣賣藥印紙税規則（大正二年六月律令第七號）

賣藥ニハ印紙税ヲ課ス

前項ノ印紙税ニ關シテハ賣藥税法ニ依ル但シ同法中賣藥營業者トアルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者、國税徴收法トアルハ臺灣國税徴收規則ヲ謂フ

賣藥税法ニ依リ印紙税ヲ納付シタル賣藥ニ付テハ印紙税ヲ課セス

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（大正二年六月府令第六十九號ヲ以テ大正二年八月一日ヨリ施行）

登録税

○登録税法

○登録税法施行規則

○領事官ノ取扱フ登記ノ登録税ニ關スル件

○登録税免除ニ關スル法令

露光量違いの為重複撮影

人ノ名稱、住所及營業所ヲ示シテ之ヲ當該地方長官ヨリ所轄稅務署ニ通知スヘシ

第五條　第三條ノ規定ニ依ル營業禁止又ハ停止ノ處分ニ違反シタル者ハ二百圓以下ノ罰金ニ處ス

第一條第二項又ハ第二條ノ規定ニ違反シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

本令ハ大正三年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

六　臺灣賣藥印紙稅規則（大正二年六月律令第七號）

賣藥ニハ印紙稅ヲ課ス

前項ノ印紙稅ニ關シテハ賣藥稅法ニ依ル但シ同法中賣藥營業者トアルハ賣藥ヲ調製又ハ輸入若ハ移入シテ販賣スル者、國稅徵收法トアルハ臺灣國稅徵收規則ヲ謂フ

賣藥稅法ニ依リ印紙稅ヲ納付シタル賣藥ニ付テハ印紙稅ヲ課セス

附　則

本令施行ノ期日ハ臺灣總督之ヲ定ム（大正二年六月府令第六十九號ヲ以テ大正二年八月一日ヨリ施行）

登錄稅

○登錄稅法

○登錄稅法施行規則

○領事官ノ取扱フ登記ノ登錄稅ニ關スル件

○登錄稅免除ニ關スル法令

露光量違いの為重複撮影

（租稅統計ノ一六）

登錄稅表

年度	不動產登記	船舶登記	法人登記	鑛業權登錄	其他	計
大正七年度	二八、九九八、〇三一円	二、八九七、三二三円	八、四〇九、四七四円	一、六九八、二五〇円	三九一、九八五円	四二、三九四、九六一円
同　六年度	二二、八九七、八六五	二、〇三九、六四九	五、七一五、七四二	一、三七四、九一九	三三四、七九九	三二、三五二、九七二
同　五年度	一八、三七九、七四九	六七一、〇三一	二、四三九、九一六	九三六、二八八	三三六、三三三	二二、七三三、三〇六
同　四年度	一五、九六四、三三四	三三〇、七〇一	一、一六一、三三一	三八一、四四三	二八九、七七八	一八、一三七、四七六
同　三年度	一四、一九二、五六〇	一七九、七四〇	一、一三一、〇〇一	三三三、九六五	二六〇、一〇一	一六、二七七、三六七

第十五章　登錄稅

一　登錄稅法（明治二十九年三月法律第二十七號）

◎改正（明治三十年三月法律第三十一號）（明治三十二年三月法律第六十號）（明治三十二年三月法律第八十三號）（明治三十三年三月法律第四十四號）（明治三十四年四月法律第二十六號）（明治三十五年三月法律第八號）（明治三十八年一月法律第九號）（明治三十八年三月法律第五十七號）（明治三十八年三月法律第五十八號）（明治三十九年四月法律第三十五號）（明治四十二年三月法律第十四號）（明治四十二年四月法律第三十一號）（明治四十三年三月法律第十一號）（明治四十三年六月法律第六十四號）（大正三年三月法律第二十一號）（大正七年三月法律第十四號）

第一條　登錄稅ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徵收ス

第二條　不動產ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號明治三四年法律第二六號明治三八年法律第九號及法律第五七號明治四三年法律第一一號改正）

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得
　不動產價格　千分ノ五

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺產相續ニ因ル所有權ノ取得
　不動產價格　千分ノ五

露光量違いの為重複撮影

（租税統計ノ一六）

登録税表

年度	不動産登記	船舶登記	法人登記	鑛業權登録	其他	計
大正七年度	二六、九九八、〇三一円	二、八九七、三三三円	八、四〇九、四七四円	一、六九八、三四〇円	五九一、九八五円	四三、五九四、九六一円
同 六年度	三二、八九七、八六五	三、〇五九、六四九	五、七一五、七四三	一、五七四、九一九	五四四、七九九	四三、五五三、九七三
同 五年度	一八、五七九、七四九	六〇一、〇三一	二、四三九、九一六	九三六、三六八	五三六、五五三	二三、七五五、三〇六
同 四年度	一五、九六四、五三四	五四〇、七〇一	一、一六一、三五一	五八一、四四三	二六九、七七八	一八、五一七、八〇七
同 三年度	一四、一九三、五六〇	一七九、七四〇	一、一三一、〇〇一	五三三、九六五	二六〇、一〇一	一六、二九七、五六七

第十五章 登録税

一 登録税法（明治二十九年三月法律第二十七號）

○改正（明治三十年三月法律第三十一號）（明治三十二年三月法律第六十號）（明治三十二年三月法律第八十三號）（明治三十三年三月法律第四十四號）（明治三十四年四月法律第二十六號）（明治三十五年法律第八號）（明治三十八年一月法律第九號）（明治三十八年三月法律第五十七號）（明治三十八年三月法律第三十八號）（明治三十九年四月法律第三十五號）（明治四十二年三月法律第十四號）（明治四十二年四月法律第三十一號）（明治四十三年三月法律第十一號）（明治四十三年六月法律第六十四號）（大正三年三月法律第二十一號）（大正七年三月法律第十四號）

第一條　登録税ハ本法ノ定ムル所ニ依リ賦課徴收ス

第二條　不動産ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録税ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號明治三四年法律第二六號明治三八年法律第九號及法律第五七號明治四三年法律第一一號改正）

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　不動産價格　千分ノ五

二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得　不動産價格　千分ノ五

三 遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ六十

但シ神社、寺院、祠宇、佛堂及民法第三十四條ニ依リ設立シタル社團又ハ財團法人カ寄附行爲ニ因リ所有權ヲ取得シタルトキハ　不動產價格ノ　千分ノ三十

四 第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　不動產價格　千分ノ三十五

五 從來保有セル所有權ノ保存　不動產價格　千分ノ五

六 共有物ノ分割　分割ニ因リテ受クル不動產ノ價格　千分ノ五

七 永代ノ地上權ノ取得　不動產價格　千分ノ二十五

八 地上權、永小作權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ二

存續期間二十年未滿　不動產價格　千分ノ三

存續期間三十年未滿　不動產價格　千分ノ四

存續期間三十年以上　不動產價格　千分ノ五

存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ五

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

九 賃借權ノ取得

存續期間十年未滿　不動產價格　千分ノ一

存續期間十年以上　不動產價格　千分ノ二

存續期間ノ定メナキモノ　不動產價格　千分ノ一

但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

十 地役權ノ取得　要役地價格　千分ノ一

十一 華族世襲財產ノ創設　不動產價格　千分ノ二十五

十二 先取特權ノ保存又ハ取得　債權金額又ハ不動產工事費用豫算金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ先取特權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ先取特權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十三 質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六

但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十四　競賣、強制管理ノ申立　債權金額　千分ノ六
十三　但シ競賣若ハ強制管理ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
十五　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四
十二　但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
十六　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六
十一　但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス
十七　相續財産ノ分離
所有權ニ付テハ　不動産價格　千分ノ六
所有權以外ノ權利ニ付テハ　不動産價格　千分ノ一
十八　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復　不動産每一箇　金二十錢
十九　假登記　不動産每一箇　金二十錢
二十　削除（明治三八年法律第九號）
二十一　附記登記　不動産每一箇　金十錢
二十二　登記ノ更正、變更又ハ抹消　不動産每一箇　金十錢
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス
第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス

第三條　船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號明治三四年法律第二六號同三八年法律第九號同四三年法律第一一號大正三年法律第二一號改正）

一　法定ノ家督相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三
二　第一號以外ノ家督相續又ハ遺産相續ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三
三　遺言、贈與其ノ他無償名義ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ三
四　第一號乃至第三號以外ノ原因ニ因ル所有權ノ取得　船舶價格　千分ノ五十
四ノ二　委付　船舶價格　千分ノ二十五
五　從來保有セル所有權ノ保存　船舶價格　千分ノ三
六　賃借權ノ取得　船舶價格　千分ノ三

存續期間十年未滿　船舶價格　千分ノ一
存續期間十年以上　船舶價格　千分ノ二
存續期間ノ定メナキモノ　船舶價格　千分ノ一
但シ權利移轉ニ因ル場合ニ於テハ既ニ經過シタル期間ヲ存續期間ヨリ控除シ其ノ殘期ヲ以テ存續期間ト看做シ登錄稅ヲ計算ス

七　質權、抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ六
但シ債權金額ナキトキ又ハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ質權抵當權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

八　競賣ノ申立　債權金額　千分ノ六
但シ競賣ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

九　假差押、假處分　債權金額　千分ノ四
但シ假差押假處分ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十　抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六
但シ差押ニ付スヘキモノノ價格カ債權金額ヨリ寡キトキハ其ノモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

十一　請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登記ノ回復
十二　假登記　船舶毎一箇　金二十錢
十三　削除（明治三八年法律第九號）　船舶毎一箇　金二十錢
十四　附記登記　船舶毎一箇　金十錢
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス
十五　登記ノ更正、變更又ハ抹消　船舶毎一箇　金十錢
但シ一件ニ付稅額金三十錢ヲ超ユルトキハ三十錢トス
第一號乃至第四號ノ場合ニ於テ共有物持分ノ取得ニ係ルモノハ其ノ持分ノ價格ニ依ル

第三條ノ二　鐵道抵當原簿、輕便鐵道抵當原簿又ハ軌道抵當原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三八年法律第五八號同四二年法律第三一號同四三年法律第六四號改正）
一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
二　強制競賣、強制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第三條ノ三　工場財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三八年法律第五八號追加）
一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一

二　强制競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　假差押、假處分　債權金額　千分ノ一
四　登記ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第三條ノ四　鑛業財團登記簿ニ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（同上）

一　抵當權ノ取得　債權金額　千分ノ一
二　强制競賣、强制管理ノ申立　債權金額　千分ノ一
三　假差押、假處分　債權金額　千分ノ一
四　登記ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二圓

第四條　船籍ノ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號改正）

一　新規登錄　毎十噸　金五十錢
二　轉籍　毎十噸　金十錢
三　除籍　毎十噸　金五錢
四　登錄ノ變更　船舶毎一箇　金十錢

船舶ノ噸數ハ總噸數ニ依ル但シ十噸未滿ノ端數ハ十噸トシテ計算ス
石數ヲ以テ積量ヲ表示スル船舶ニ在テハ積石數百石ヲ十噸トシテ計算ス

第五條　土地臺帳ニ左ノ事項ヲ登錄スルトキハ土地所有者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號同三五年法律第八號改正）

一　新規登錄　地價　千分ノ二十
二　地價ノ設定　地價　千分ノ十
三　地價ノ修正　地價　千分ノ十
四　開墾　地價　千分ノ十
五　開墾鍬下年期付與　地價　千分ノ十
六　地價据置年期付與　地價　千分ノ十
七　新開発租年期延長　地價　千分ノ十
八　鍬下年期、地價据置年期ノ延長　地價　千分ノ十
九　低價年期ノ付與　地價　千分ノ一
十　地租條例第二十二條ノ地價ノ修正　地價　千分ノ一
十一　地價ノ復舊　地價　千分ノ一

本條中地價未設定ノ土地ハ近傍類地地價ノ比準ニ依ル

第六條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ但シ第一號第三號第六號第九號ノ場合ニ於テ稅金額十圓未滿ナルトキハ十圓トス（明治三二年法律第八三號同四三年法律第一一號大正三年法律第二一號大正七年法律第一四號改正）

一　合名會社、合資會社設立　財産ヲ目的トスル出資ノ價格　千分ノ四

二	合名會社、合資會社出資增加	財産ヲ目的トスル增出資ノ價格	千分ノ四
三	株式會社設立	拂込株金額	千分ノ五
四	株式會社資本增加	增資拂込株金額	千分ノ五
五	株式會社第二回以後ノ株金拂込	毎回拂込株金額	千分ノ五
六	株式合資會社設立	拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ五
七	株式合資會社資本增加	增資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ五
八	株式合資會社第二回以後ノ株金拂込	毎回拂込株金額	千分ノ五
九	合併又ハ組織變更ニ因ル會社ノ設立	拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ二
十	合併ニ因ル會社資本ノ增加	增資拂込株金額及財産ヲ目的トスル株金以外ノ出資ノ價格	千分ノ二
十一	社債	拂込金額	千分ノ二
十一ノ二	第二回以後ノ社債拂込	毎回拂込金額	千分ノ二
十二	支店設置	毎一箇所	金十五圓
十三	本店又ハ支店ノ移轉	毎一件	金七圓
十四	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件	金七圓
十五	登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止	毎一件	金七圓

但シ商法施行法ニ依リ新ニ登記スヘキ事項ノ登記ハ登記事項ノ變更ト看做ス

十六	登記ノ更正又ハ抹消	毎一件	金七圓
十六ノ二	合名會社、合資會社設立ノ取消	毎一件	金五圓
十七	解散	毎一件	金五圓
十八	清算人ノ選任、解任又ハ變更	毎一件	金一圓五十錢
十九	清算ノ結了	毎一件	金一圓五十錢

支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ毎一件金一圓五十錢ノ登録稅ヲ納ムヘシ

（第三項乃至第五項大正七年法律第一四號削除）

第六條ノ二　左ノ事項ニ付登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登録稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號同四三年法律第一二號改正）

一	商號ノ新設又ハ取得	毎一件	金七圓
二	支配人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件	金七圓
三	船舶管理人ノ選任又ハ代理權ノ消滅	毎一件	金七圓
四	商法第五條第七條ニ依ル登記	毎一件	金三圓
五	民法第七百九十四條第七百九十五條及第七百九十七條ニ依ル登記	毎一件	金三圓

六　登記事項ノ變更、消滅又ハ廢止　每一件　金一圓五十錢
七　登記ノ更正又ハ抹消　每一件　金一圓五十錢
支店所在地ニ於テ前項各號ノ登記ヲ受クルトキハ每一件金七十錢ノ登錄稅ヲ納ムヘシ

第七條　左ノ事項ニ付辯護士名簿ニ登錄ヲ請フ者ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ

一　新規登錄　金二十圓
二　登錄換　金十圓
三　取消ノ請求　金一圓

第八條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ醫師、藥劑師、獸醫、蹄鐵工ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號改正）

一　新規登錄
醫師　金二十圓
藥劑師　金十二圓
獸醫　金五圓
蹄鐵工　金五圓
假開業醫師　金三圓
假免許獸醫　金三圓
假免許蹄鐵工　金一圓

二　登錄事項ノ變更　每一件　金五十錢

第九條　左ノ事項ヲ官簿ニ登錄スルトキハ海員ハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三二年法律第八三號改正）

一　新規登錄
甲種船長　金十五圓
甲種一等運轉士　金十圓
甲種二等運轉士　金六圓
乙種船長　金十圓
乙種一等運轉士　金四圓
乙種二等運轉士　金三圓
丙種船長　金六圓
丙種運轉士　金二圓
機關長　金十五圓
一等機關士　金十圓
二等機關士　金六圓
三等機關士　金三圓
水先人　金二十圓

二　登錄事項ノ變更　毎一件　金五十錢

第十條　著作權ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四三年法律第六四號改正）

一　著作權ノ移轉
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金五圓
二　著作權ヲ目的トスル質權ノ設定　債權金額　千分ノ六
三　前號ノ權利ノ移轉
　相續　毎一件　金五十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金一圓
四　無名又ハ變名著作物ノ著作者ノ實名登錄　毎一件　金二圓
五　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金二十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十一條　特許ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四二年法律第三一號改正）

一　特許權ノ移轉
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十圓
二　使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存　毎一件　金五圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定　債權金額　千分ノ六
四　前二號ノ權利ノ移轉
　相續　毎一件　金五十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓
五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金五十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十二條　意匠ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（同上）

一　意匠權ノ移轉
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓
二　實施權ノ設定又ハ保存　毎一件　金一圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定　債權金額　千分ノ六
四　前二號ノ權利ノ移轉

相續　每一件　金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金一圓
五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　金二十錢
債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十二條ノ二　實用新案ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三八年法律第五八號追加同四二年法律第三一號改正）
一　實用新案權ノ移轉
相續　每一件　金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金五圓
二　使用權又ハ實施權ノ設定又ハ保存　每一件　金二圓
三　前二號ノ權利ヲ目的トスル質權ノ設定　債權金額　千分ノ六
四　前二號ノ權利ノ移轉
相續　每一件　金五十錢
相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金一圓

五　滯納處分以外ノ原因ニ因ル第一號乃至第三號ノ權利ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
六　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　金二十錢
債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十三條　商標ニ關シ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
但シ聯合商標ニ在リテハ各其ノ半額トス（明治四二年法律第三一號改正）
一　商標權ノ移轉
相續　每一件　金一圓
相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金十圓
二　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　金五十錢

第十四條　鑛業權ニ關シ鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治三八年法律第九號同四三年法律第二一號改正）
一　試掘權ノ設定　每一件　金百圓
二　試掘權ノ變更
增區又ハ增減區　每一件　金四十五圓
減區　每一件　金十圓

三　試掘權ノ移轉
　相續　每一件　金十圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金四十五圓
四　採掘權ノ設定
　新規登錄　每一件　金二百圓
　鑛區合併　每一件　金五十圓
　鑛區分割　設定鑛區每一箇　金五十圓
五　採掘權ノ變更
　鑛區訂正　每一件　金五十圓
　增區又ハ增減區　每一件　金百圓
　減區　每一件　金二十圓
六　採掘權ノ移轉
　相續　每一件　金二十圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金百圓
七　抵當權ノ設定
　新規登錄　債權金額　千分ノ六
　鑛業法第三十五條第二項ニ基キ爲シタル承諾及協定ニ因ル設定

八　順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　每一件　金五圓
九　抵當權ノ移轉
　相續　每一件　金十圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　每一件　金五圓
十　共同鑛業權者ノ脫退　每一件　金十圓
十一　滯納處分以外ノ原因ニ因ル鑛業權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四
十二　廢業ニ因ル鑛業權ノ消滅　每一件　金五圓
十三　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　每一件　金十錢
債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十五條（明治四二年法律第一四號改正）砂鑛業ニ關シ砂鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ
一　砂鑛權ノ設定
　新規登錄　採取區域河床ハ每二里迄其ノ他ハ每十萬坪迄　金十五圓

砂鑛區合併　毎一件　金三圓
砂鑛區分割　設定砂鑛區毎一箇　金三圓

二　砂鑛權ノ變更
　增區　採取區域河床ハ毎二里迄其ノ他ハ毎十萬坪迄　金十五圓
　減區　毎一件　金一圓
　　但シ増區ト同時ニ爲ス減區ニ付テハ此ノ限ニ在ラス

三　砂鑛權ノ移轉
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十五圓

四　抵當權ノ設定
　新規登錄　債權金額　千分ノ六
　砂鑛區ノ合併又ハ分割ノ出願ニ付砂鑛法ニ基キ爲シタル承諾又ハ協定ニ因ル設定　毎一件　金五圓

五　順位ノ變更ニ因ル抵當權ノ變更　毎一件　金十圓

六　抵當權ノ移轉
　相續　毎一件　金五圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金十錢

七　滯納處分以外ノ原因ニ因ル砂鑛權又ハ抵當權ノ處分ノ制限　債權金額　千分ノ四

八　廢業ニ因ル砂鑛權ノ消滅　毎一件　金一圓

九　登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十五條ノ二　漁業權又ハ入漁權ニ關シ免許漁業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四三法律第六四號追加）

一　漁業權ノ移轉
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金五圓

二　漁業權ノ持分ノ移轉
　相續　毎一件　金二十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金一圓

三　入漁權ノ設定　毎一件　金三圓

四　入漁權ノ保存　毎一件　金五十錢

五 入漁權ノ移轉
　相續　毎一件　金五十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓
六 入漁權ノ持分ノ移轉
　相續　毎一件　金十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金五十錢
七 賃借權ノ取得
　相續　毎一件　金五十錢
　相續以外ノ原因ニ因ル取得　毎一件　金二圓
八 先取特權ノ保存又ハ取得　債權金額又ハ工事費用豫算金額　千分ノ六
九 抵當權ノ設定又ハ移轉
　設定　債權金額　千分ノ六
　相續　毎一件　金一圓
　相續以外ノ原因ニ因ル移轉　毎一件　金二圓
十 競賣、強制管理ノ申立　債權金額　千分ノ六
十一 假差押、假處分　債權金額　千分ノ四
十二 抵當アル債權ノ差押　債權金額　千分ノ六
十三 請求又ハ申立ニ因リ抹消セラレタル登錄ノ回復　毎一件　金二十錢
十四 假登錄　毎一件　金二十錢
十五 附記登錄　毎一件　金十錢
十六 登錄ノ更正、變更又ハ抹消　毎一件　金十錢

債權金額ニ因リ課稅額ヲ定ムル場合ニ於テ一定ノ債權金額ナキトキハ債權ノ目的タルモノノ價格ヲ以テ債權金額ト看做ス

第十六條 左ノ場合ニ於テ不動產又ハ船舶ニ關スル登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納ムヘシ（明治四二年法律第三一號／大正三年法律第二二號改正）

一 府縣郡市町村ノ廢置分合若ハ境界變更ニ因ル府縣郡市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ府縣郡市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存
　不動產又ハ船舶ノ價格　千分ノ二
二 市町村ノ一部ニ屬スル財產ヲ無償名義ニ因リ其ノ市町村ニ移ス場合ニ於ケル市町村ノ權利ノ取得又ハ其ノ市町村ニ所有權ヲ移スニ付爲ス所有權ノ保存
　不動產又ハ船舶ノ價格　千分ノ一
三 法人ノ合併ニ因ル法人ノ權利ノ取得
　不動產又ハ船舶ノ價格　千分ノ五

他ノ規定ニ依リ算出シタル稅額カ前項第三號ニ依ル稅額ヨリ少キトキハ其ノ稅額ニ依ル

前二項ノ場合ニ於テ稅金額十錢未滿ナルトキハ十錢トス

第十七條　登錄稅ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ但シ勅令ノ定ムル所ニ依リ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第十八條　登錄稅ハ總テ金一錢以上トス一錢未滿ノ端數ハ一錢トシテ之ヲ計算ス

第十九條　左ニ掲クルモノニハ登錄稅ヲ課セス（明治三二年法律第八三號同三三年法律第四四號大正三年法律二一號大正七年法律第一四號改正）

一　政府自已ノ爲ニスル登記又ハ登錄

二　府縣郡市町村其ノ他公共團體ニ於テ公用ニ供スル不動產ノ登記又ハ登錄

三　社寺堂宇ノ敷地及墳墓地ニ係ル登記又ハ登錄

四　明治六年第十八號布告地所質入書入規則及同八年第百四十八號布告建物書入質規則ニ從ヒテ公證ヲ經タル證書面ノ權利ニ付テ債權者ヨリ申請スル登記

五　產業組合、產業組合聯合會、產業組合中央會、漁業組合又ハ漁業組合聯合會ニ付產業組合法又ハ漁業法ニ基キテ爲ス登記

第十九條ノ二　登記者カ登記申請者ノ申告シタル課稅標準ノ價格ヲ不相當ト認ムルトキハ其ノ價格ヲ認定シ之ヲ登記申請者ニ告知スヘシ（明治三二年法律第八三號追加大正三年法律第二一號改正）

第十九條ノ三　前條ノ認定ヲ不當トスル登記申請者ハ費用ヲ豫納シテ評價人ノ評價ヲ登記所ニ請求スルコトヲ得（大正三年法律第二一號追加）

前項ノ請求アリタルトキハ登記所ハ二人ノ評價人ヲ選定シ課稅標準ノ價格ヲ評定セシム評價人ノ評價一致セサルトキハ其ノ平均價格ニ依ル

評定價格カ認定價格ヨリ多キトキハ認定價格ニ依リ、申告價格ヨリ少キトキハ申告價格ニ依リ課稅標準ノ價格ヲ定ム

第十九條ノ四　前條ノ評價ニ不服アル登記申請者ハ其ノ告知ヲ受ケタル日ヨリ七日內ニ管轄地方裁判所ニ異議ノ申立ヲ爲スコトヲ得（同上）

異議ニ付テノ決定ニ對シテハ不服ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十九條ノ五　登記申請者カ評價ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テ申告價格ニ相當スル稅額ト認定價格ニ相當スル稅額トノ差額ヲ納付シタルトキハ登記所ハ直ニ登記ヲ爲スヘシ（同上）

第十九條ノ六　當該事件ニ關係ヲ有スル者ハ評價人タルコトヲ得ス（同上）

第十九條ノ七　評價人ハ勅令ノ定ムル所ニ依リ旅費及手當ヲ受ク（同上）

第十九條ノ八　評價ニ要シタル費用ハ登記申請者ノ負擔トス但シ評定價格カ申告價格ニ超エサルトキハ此ノ限ニ在ラス（同上）

第十九條ノ九　評價ノ費用ハ印紙ヲ以テ之ヲ納ムヘシ（同上）

附　則

第二十條　本法ハ明治二十九年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

第二十一條　現行法律命令ニ規定スル登記料又ハ手數料等ニシテ本法ニ規定スル登錄稅ト重複

スルモノハ本法施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

附　則（明治三十二年三月法律第六十號）

此ノ法律ハ明治三十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

附　則（明治三十二年三月法律第八十三號）

此ノ法律ハ明治三十二年四月一日ヨリ施行ス但シ第十條ハ著作權法施行ノ日ヨリ施行ス

附　則（明治三十八年一月法律第九號）

本法ハ明治三十八年四月一日ヨリ之ヲ施行ス但シ鑛業原簿ノ登錄ニ付テハ鑛業法施行ノ日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前鑛業條例ニ依リ鑛業ニ關スル出願又ハ屆出ヲ爲シ既ニ登錄稅ヲ納メタル者鑛業法ニ依リ其事項ニ付鑛業原簿ニ登錄ヲ受クルトキハ登錄稅ヲ納ムルヲ要セス

附　則（明治四十二年四月法律第三十一號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第三條ノ二、第六條及第十六條ノ改正規定ハ明治四十二年九月一日ヨリ施行（明治四二年勅令第二二一號）

登錄稅法第十一條乃至第十三條ノ改正規定ハ明治四十二年十一月一日ヨリ施行（明治四二年勅令第三〇二號）

附　則（明治四十二年三月法律第十四號）

本法ハ明治四十二年七月一日ヨリ之ヲ施行ス

本法施行前砂鑛採取法ニ依リ砂鑛業ニ關スル出願又ハ屆出ヲ爲シ既ニ手數料ヲ納メタル者ハ砂鑛法ニ依リテ爲ス其ノ事項ノ登錄ニ付更ニ登錄稅ヲ納ムルコトヲ要セス砂鑛法第二十七條第一項ニ依ル登錄ニ付亦同シ

附　則（明治四十三年三月法律第十一號）

本法ハ明治四十三年四月一日ヨリ之ヲ施行ス

非常特別稅法中登錄稅ニ關スル規定ハ之ヲ廢止ス

附　則（明治四十三年六月法律第六十四號）

本法施行ノ期日ハ各條ニ付勅令ヲ以テ之ヲ定ム

登錄稅法第十條ノ改正規定ハ明治四十三年七月五日ヨリ施行（明治四三年勅令第二七六號）

同稅法第三條ノ二ノ改正規定ハ明治四十三年八月三日ヨリ施行（明治四三年勅令第三一五號）

同稅法第六條及第十五條ノ二ノ改正規定ハ明治四十四年四月一日ヨリ施行（明治四三年勅令第四三四號）

附　則（大正三年三月法律第二十一號）

本法施行ノ期日ハ勅令ヲ以テ之ヲ定ム（大正三年一月勅令第二百二十四號ヲ以テ大正三年十一月十五日ヨリ施行）

附　則（大正七年三月二十五日法律第十四號）

本法ハ公布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

二登錄稅法施行規則（明治三十二年五月勅令第二百五號）

◎改正（明治三十八年三月勅令第七十七號）（大正三年十月勅令第二百二十五號）

第一條　印紙ヲ以テ納ムル登錄稅ハ登錄ニ關スル書類ニ收入印紙ヲ貼用シテ之ヲ納ムヘシ

第二條　登錄稅額五百圓以上ナルトキハ稅務署ニ申出テ現金ヲ以テ納ムルコトヲ得

第三條　官廳又ハ公署ヨリ登記若ハ假登記又ハ登錄若ハ假登錄ヲ登記所又ハ登錄官廳ニ囑託スヘキ場合ニ於テハ登錄稅ヲ納ムヘキ者其ノ官廳又ハ公署ニ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ提出シ其ノ官廳又ハ公署ハ囑託書ニ其ノ印紙ヲ貼用シ又ハ其ノ證書ヲ添付シテ登記所又ハ登錄官廳ニ送付スヘシ（大正三年勅令第二二五號改正）

第四條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ書類ヲ提出セサルトキハ稅務署ノ通知ニ依リ相當印紙又ハ現金ノ領收證ヲ稅務署ニ提出スヘシ

第五條　土地臺帳ノ登錄ニ付登錄稅ヲ納ムヘキ場合ニ於テ相當印紙ヲ貼用セス若ハ提出セス又ハ現金納付ノ手續ヲ爲サヽルトキハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ之ヲ徵收スルコトヲ得

第五條ノ二　管海官廳カ船舶法第十四條第二項ニ依リ抹消ノ登錄ヲ爲シ其ノ旨稅務署ニ通知シタルトキハ稅務署ハ納稅告知書ヲ發シ現金ヲ以テ登錄稅ヲ徵收スヘシ（明治三八年勅令第七七號追加）

第六條　登錄稅法第十九條ノ三ニ依リ評價ノ請求ヲ爲ス者アルトキハ登記官吏ハ豫納スヘキ費用ヲ指示スヘシ（大正三年勅令第二二五號改正）

登記申請者ノ豫納スヘキ費用ハ評價人ノ手當、旅費及手續ノ費用ニ相當スル金額トス

第七條　登錄稅法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ旅費ハ左ノ各號ニ依リ之ヲ定メ其ノ支給ニ付テハ內國旅費規則ヲ準用ス（大正三年勅令第二二五號追加）

一　鐵道賃一哩ニ付金三錢

二　船賃一海里ニ付金四錢

三　車馬賃一里ニ付金二十五錢

四　宿泊料一夜ニ付金一圓五十錢

五　日當一日ニ付金一圓

第八條ニ依リ手當ヲ支給スヘキ日ニ付テハ日當ヲ支給セス

第八條　登錄稅法第十九條ノ七ニ依ル評價人ノ手當ハ評價ニ從事シタル日數ニ應シ一日金一圓以上五圓以下ノ範圍內ニ於テ登記所ノ見込ヲ以テ之ヲ定ム（同上）

附　則（大正三年十月勅令第二百二十五號）

本令ハ大正三年十一月十五日ヨリ之ヲ施行ス

三　登錄稅法施行規則第四條ニ關スル取扱方ノ件（明治三十二年五月大藏省訓令第三十八號）

登錄稅法施行規則第四條ニ依リ印紙ヲ提出シタル者アルトキハ左ノ通取扱フヘシ

一　稅務署ハ印紙ノ提出者ニ對シ其ノ領收書ヲ交付スヘシ但シ提出者ノ面前ニ於テ以下三項ノ手續ヲ爲シタルトキハ領收書ノ交付ヲ要セス

二　土地ノ異動ニ關シ土地所有者ヨリ願出又ハ屆出アリタルニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ土地ノ異動ニ關スル願書又ハ屆書ニ其ノ印紙ヲ貼付シ置クヘシ

三　土地ノ異動ニ關シ官廳ヨリ通知アリタルニ依リ土地臺帳ノ登錄ヲ要スルニ至リタル場合ニ於テハ其ノ通知書ニ其ノ印紙ヲ貼付シ置クヘシ

四　前二項ヲ除ク外ノ場合ニ於テハ土地所有者ノ住所、氏名、登錄ヲ要スル土地ノ所在地、地番、地目、地價及ヒ登錄稅法第五條中該當事項ヲ記シタル調書ヲ作リ之ニ其ノ印紙ヲ貼用スヘシ

五　貼付シタル印紙ニハ書類ノ紙面ト印紙ノ彩紋トニカケ黑肉ヲ用キテ消印ヲ押捺スヘシ

六　二項乃至四項ニ依リ印紙ヲ貼付シタル書類ハ少ナクトモ毎月一回上司ニ於テ檢閱シ貼付印紙及ヒ消印ノ有無當否ヲ調査スヘシ

四　領事官ノ取扱フ登記ノ登錄稅ニ關スル件（明治三十九年八月勅令第三百十九號）

第一條　領事官ノ取扱フ登記事務ニ關シ本令ニ規定シタルモノニ付テハ登錄稅法ノ規定ヲ適用セス

第二條　商事會社其ノ他營利ヲ目的トスル法人ニシテ登記ヲ受クルトキハ左ノ區別ニ從ヒ登錄稅ヲ納付スヘシ

一　合名會社合資會社設立

財產ヲ目的トスル出資ノ價格

一萬圓未滿	金十圓
一萬五千圓未滿	金十三圓
二萬圓未滿	金十六圓
二萬五千圓未滿	金十九圓

二萬五千圓以上五十萬圓未滿ハ其ノ二萬五千圓ヲ超ユル金額一萬圓每ニ金一圓ヲ加算シ、五十萬圓以上ハ其ノ五十萬圓ヲ超ユル金額一萬圓每ニ金五十錢ヲ加算ス

二　合名會社合資會社出資增加

財產ヲ目的トスル出資ノ總額ニ對シ前號ニ依リ納付スヘキ登錄稅ノ金額ヨリ既ニ納付シ